

茗溪



秋

2025

令和7年

no.1126

目次

- グラビア 01 ~ 02
- 令和7年度茗溪会地域組織表 03
- 茗溪会学生活動支援事業について 04 ~ 05
- 筑波キャンパスでのキャリア支援レポート'25 06 ~ 07
- 令和8年度定時総会案内 08
- 医薬品・関連業界交流会報告 09
- PeerGarden（茗溪アルハム） 10 ~ 13
- 少子化時代を迎えた大学教育と筑波大学の取り組みについて 14 ~ 15
- 「知の提供・誌上講座」健康という言葉をめぐる 16 ~ 17
- 元素講話こぼれ話 第10話 18
- 桐の葉のつどい 19 ~ 20
- 茗溪フェロー協力者ご芳名 20
- 追悼録 22
- 筑波大学は今 23
- 茗溪学園だより 24
- 予告 25
- 令和8・9年度 代議員選挙公示 26
- 広報 26 ■ 表紙のことば 26 ■ 編集後記 26





安全に、快適に、正確に
大曽根タクシー株式会社

代表取締役 塚本 一也

☆GOアプリ配車

☆貸切バス事業者より

安全性評価認定(★★★)されました



〒300-3261 茨城県つくば市花畑 3 丁目 19-4

TEL 029-864-0301

FAX 029-864-4727

メールアドレス <http://www.taxi.e-tsukuba.jp>

フリーダイヤル 0120-000-302

各営業所に通じます



地域と歩み、次代を創る。

SEKISHO
SEKISHO GROUP

当社は「財団法人関彰育英会」を通して、筑波大学大学院博士後期課程の院生に、研究支援として奨学金の支給を行っております。



関彰商事株式会社

代表取締役社長 関 正樹

つくば本社 / 茨城県つくば市二の宮 1-23-6 TEL 029-860-5151

若溪会担当：専務取締役 岡本 俊一

〈昭和56年 第一学群 社会学類 卒業〉

<https://www.sekisho.co.jp/>

KAIT

力と自信がつく教育で
「考え、行動する人材」を育成します。

■工学部

機械工学科

電気電子情報工学科

応用化学生物学科

■情報学部

情報工学科

情報ネットワーク・コミュニケーション学科

情報メディア学科

情報システム学科

■健康医療科学部

看護学科(看護師・保健師養成課程)

管理栄養学科(管理栄養士養成課程)

臨床工学科(臨床工学技士養成課程)

教職センター 大畑多津雄(S52 理)

林 忠(S58第1自)

吉川 亮(S60第2比)



神奈川工科大学
KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野1030
TEL.046-291-3002 URL:<https://www.kait.jp/>



①③富山支部 (7/5 宣揚歌、総会) ②大阪茗溪会 (6/14 宣揚歌、茗溪会と茗友会の共催は数年前から行われている) ④愛媛茗溪会 (8/3 本部挨拶をする廣田常務理事) ⑤神奈川茗溪会 (7/19 初参加の挨拶をする花木大樹 (H 27 体専、筑波大学職員)) ⑥あきた茗溪会 (7/12 本部総会報告をする田口良美 (S59 農林) 事務局長) ⑦⑧愛媛茗溪会 (8/3 宣揚歌、懇親会)

明るく元気な茗溪会



茗溪・筑波産業人倶楽部Ⅲ (2025/8/23 茗溪会館) ①



②



④



⑤



③

- ①テーブルAで「小さな乾杯」
- ②テーブルDで自己紹介
- ③研究発表をする本宮弘 (H14工)
- ④進行役を務めた大棟耕介 (H4 体専) の大技
- ⑤自己紹介の風景
- ⑥「茗溪の間」の扉越しに見る自己紹介



⑥

令和7年度茗溪会地域組織表

	代表者 (卒年科)	事務局担当者
筑波大	伊藤純郎 (50筑一人文)	野崎芳恵 (12築二日日) 山澤学 (11筑博歴人)
名誉教授の会	白岩善博 (50教大修植)	新井達郎 (56筑博化)
北海道	川口淳 (58筑修教)	尾形友秀 (05筑修体) 吉田健作 (16筑体)
青森	工藤清彦 (61筑体)	工藤誠司 (09筑体) 五十嵐喜代歌 (09筑体)
岩手	菊池勝彦 (02筑体)	清水茂幸 (59筑体) 上濱龍也 (62筑体) 澤村省逸 (62筑体)
宮城	土生善弘 (62筑体)	山崎健二 (02筑体)
秋田	庫山徹 (01筑一自然)	田口良実 (59筑二農林)
山形	石山宣浩 (62筑二比文)	武田宏典 (09筑体) 高橋尚 (24筑体) 白田亜弓 (17筑体)
福島	佐藤弘樹 (61筑体) 鈴木義祐 (61筑体)	渡邊優輔 (21筑修教) 大槻文彦 (12筑修理) 伊藤淳一 (09筑修教)
茨城	細貝雅之 (02筑二比文)	花沢典行 (20筑二人間) 日吉貴之 (18筑修数) 坪雄太 (11筑一自然)
栃木	長裕之 (02筑一人文)	関口光弘 (13筑一自然) 福田秀樹 (13筑一自然)
群馬	高橋利之 (63筑一自然) 今井貴子 (63筑体) 田島正徳 (63筑体)	櫻澤正明 (01筑一自然) 福島興征 (17筑一自然) 川野泰和 (23筑理工数)
埼玉		青木勇藤 (55筑一人文) 大川勝 (59筑体) 山本健敬 (59筑一自然)
千葉	百瀬明宏 (55筑一人文)	大久保利宏 (52教大健) 峯浩之 (14筑一自然) 田口亜紀子 (08筑一自然)
東京	高橋基之 (53筑一自然) 柳久美子 (50教大體) 眞當哲博 (57筑二人間) 小林千洋 (53第一社会)	浅井一郎 (55第一人文) 笹のぶえ (56筑二比文) 西塚春義 (53筑体) 藤田宗男 (56筑一社会) 渡部史人 (53筑一自然) 藤村優香理 (61筑二人間) 竹鼻志乃 (01筑二生物) 栗原茂夫 (55筑二比文)

	代表者 (卒年科)	事務局担当者
神奈川	加藤充洋 (56筑一社会)	大石進 (56筑体) 添野龍雄 (57筑二農林) 鈴木孝幸 (04筑三情報)
山梨	伊藤裕之 (63筑芸)	鶴田博 (06筑一人文) 中川貴博 (61筑一自然)
長野	倉田慎司 (05筑修教)	卯之原勇輝 (24筑修人) 臼井山貴 (30筑一人文) 速渡賀大 (29筑修人)
新潟	遠間春彦 (61筑修教)	鹿俣譲 (05筑一自然) 羽賀己生 (09筑二比文) 佐藤俊 (13筑修教)
富山	辻本努 (01筑一人文)	橘和徳 (23筑修人) 安村良紀 (18筑三工基) 箱江典子 (23筑博数)
石川	居村吉記 (01筑体)	神田康 (15筑体) 横野祐太郎 (26筑体) 近岡岳則 (17筑二人間)
福井	熊野善明 (01筑体)	市岡勇一 (01筑体) 上野早苗 (05筑二日日)
静岡	石川徹 (63筑一人文)	鈴木康之 (02筑修教) 掛下裕史 (03筑一人文)
愛知	竹下裕隆 (56筑一社会)	米津利仁 (04筑二農林) 三浦千加子 (13筑修教) 天野泰利 (08筑体)
岐阜	増田智至 (63筑二農林) 蒲尚胤 (02筑一人文)	水野裕子 (01筑二人間) 高田剛 (10筑二資源)
三重	若宮一哉 (06筑一自然)	佐野真也 (15筑三工シ) 加藤英紀 (15筑一自然) 岡武志 (09筑二生物)
滋賀	脇坂高峰 (56筑体)	長瀬慎吾 (20筑体) 桂本尚樹 (62筑体) 藤江隆史 (08筑体)
京都	遠山秀史 (61筑一自然) 藤原秀規 (04筑体) 藤野貴之 (06筑体)	大槻寛史 (03筑体) 岩佐隆之 (08筑体) 柳俊二郎 (13筑体) 奥村典夫 (61筑修教) 三浦敏史 (24筑体)
大阪	戸井田克己 (59筑二比文)	北邨淳 (19筑体)
兵庫	横山清隆 (01筑二人間)	山本大介 (16筑体) 長井浩一 (05筑体)
奈良	谷垣康 (53筑一人文) 松田勝雅 (54筑体) 井上徳之 (58筑一自然)	岩佐泰造 (13筑体) 米田浩之 (22筑一人文) 栗本善弘 (10筑体)

	代表者 (卒年科)	事務局担当者
和歌山	森文哉 (63筑体)	古家雅之 (12筑体) 玉出慎 (12筑体)
鳥取	小倉健一 (53筑体)	美多賀鼻孝裕 (10筑体) 加藤淳一 (06筑体) 出雲大輔 (24筑体)
島根	境英俊 (59筑修体)	西村覚 (01筑修体) 塚田真也 (21筑博数) 王傲寒 (29筑博数)
岡山	長尾隆史 (55筑体)	延原良明 (57筑体)
広島	大辻明 (47教大體)	若井研治 (09筑体)
山口	開地元典 (59筑二生物)	藤本秀夫 (15筑修体) 藤原正太郎 (27筑体)
徳島	藤川美和 (63筑一人文)	竹本佐知子 (09筑体) 北條伸吾 (62筑一人文) 藤川健司 (21筑修体)
香川	村上盛彦 (01筑体)	飯尾美保 (04筑芸) 迫田真由美 (05筑二日日)
愛媛	川野光正 (02筑体)	辻岡英幸 (03筑体) 梶原健作 (21筑体) 友近拓也 (13筑体)
高知	楠瀬誠悟 (63筑修教)	手林慎一 (10筑博農) 山本英作 (03筑二比文) 下坂速人 (53筑体)
福岡	堤隆広 (63筑体)	黒木泰貴 (29筑修人)
佐賀	松雪誉 (61筑体)	松本真知 (15筑二資源)
長崎	岩橋英夫 (63筑体)	大水征史 (17筑体) 今泉那葉 (04筑二比文) 井手英介 (15筑体)
熊本	寺本護 (07筑体)	原田大賢 (13筑二人間) 池田将文 (14筑体) 渡邊幸樹 (15筑体)
大分	加藤寛章 (62筑体)	押田武 (11筑体)
宮崎	児玉洋一 (02筑三社工)	川内健二 (16筑二比文) 中村和央 (19筑修環)
鹿児島	黒木哲二 (62筑二比文)	前和樹 (11筑一人文)
沖縄	前門晃 (58筑博理)	三輪一義 (02筑修体) 古堅小百合 (12筑修理) 漢那洋子 (63筑一自然)

学生活動支援事業

茗溪会では、筑波大学への支援の一つとして、学生活動支援事業を行っています。

学生活動支援事業は、筑波大学の学生の団体又は個人が課外活動として取り組んでいるイベント等の企画に対して、計画段階で選考し助成金を交付するものです。



総合交流会館で行われた令和7年度学生活動支援事業目録贈呈式及び決定通知書交付式

今年度は、申請のあった四十件について、茗溪会から阿江通良副理事長、新井達郎理事、守橋健二理事、矢野正人副理事長・事務局長、筑波大学からは千葉親文副学長、唐木清志学生生活支援室長、中澤秋夫学生部長が選考委員として選考を行い、申請どおり全件が採択されました（表参照）。

これを受け、七月八日、筑波大学総合交流会館にて目録贈呈式が行われ、井口理事長から千葉副学長へ目録が贈呈されました。

その後、助成金決定通知書交付式が行われ、阿江選考委員長から採択され

た団体、個人へ決定通知書を交付し、学園祭実行委員会、インドワークキャンプ団体 namaste、人形劇団 NEU から学生を代表して挨拶がありました。

今年度、新しく採択された団体・個人の活動を紹介します。

○ i G E M T S U K U B A

私たちは、合成生物学の国際大会 i G E M に挑戦する筑波大学の学生チームです。合成生物学に関する研究を、設計→実験→解析までを学生が主体となつて一貫して実施しています。研究活動に加え、学内外の授業・イベントでの実験体験や講演、学校・地域団体との連携企画を通じて合成生物学の魅力をわかりやすく伝え、次世代の人材育成にも取り組めます。

今年十月末にパリで開かれる世界大会に出場します。クラウドファンディングも実施中です！

○ 筑波大学社会貢献プロジェクト

写真部

私たちは「創作や芸術をもっと身近に」を合言葉に、今年から活動を始めました。これまでに、写真という誰もが取り組みやすい表現手段に注目し、創作や芸術への関心を育むきっかけとなることを目指した展示やワークショップを行いました。さらに9月には、つくば美術館での展示を通じて、芸術の必然性や価値を来場者と共に考える機会の創出に挑戦しました。

来年度以降も、新たな目線から芸術に親しむきっかけを提供する企画に挑

戦しつつ、活動を継続する予定です。

○ 筑波大学新入生歓迎委員会

私たち新入生歓迎委員会は、4月から5月にかけて行われる新入生歓迎期間の運営を担う団体です。

入学式後の歓迎行事を通じて、新入生の皆さんの門出を祝い、このつくばの地へ来たことを歓迎するとともに、学内の多彩な学生団体の活動を紹介する場の提供を行っています。

私たちは単にイベントを運営するだけではなく、「この大学を好きになる」を最大の理念に掲げ、大学生活の第一歩を希望をもって踏み出せるよう、企画や場づくりに取り組んでいます。

○ 筑波大学お笑い集団 DONPAPA

私たち筑波大学お笑い集団 DONPAPA は、筑波大学唯一の公認お笑いサークルとして日々活動しています。学校内外でのお笑いライブ開催の他、つくば市内のイベントでネタ披露や MC なども行っております。

筑波大学生とつくば市民の皆様にお笑いの楽しさを感じてもらうために、これからも活動してまいりますので、応援よろしくお願い致します。

○ 新開俊智

私は現在体育会三部活動のトレーニング指導を行っております。専門的なストレングストレーニングの知識・技術の提供を通じて、筑波大学のアスリートがさらに活躍できるようサポートして参ります。選手のみならず学生コーチ・トレーナーのリテラシーを高め

ることで、筑波大学全体のレベルアップを目指していきたいと思っています。ご依頼等ございましたら遠慮なくご連絡ください。

○ アイススケート部

私たちアイススケート部は、大学から始めた部員が多いですが、部員同士で教え合い切磋琢磨しながら活動しています。

大会出場を目指し、大学内での陸上トレーニングに加え、千葉県のスケートリンクで氷上練習に取り組んでいます。プログラム作成や大会での経験を通して努力や成長を実感し、今後もスケートを楽しみながら頑張っていきたいと思います。

○ 人形劇団 NEU

人形劇団 NEU（ノイ）は、芸術としての人形劇を達成するべく、人形劇の鑑賞・批評、人形劇に関するイベントへの参加、プロ・アマ含めた他劇団との交流、また子どもから大人まで鑑賞者が様々な垣根を越えて楽しめる人形劇を製作・公演している団体です。

その起源は東京教育大学時代にまで遡り、劇団の立ち上げ以来、公的施設や小学校での依頼公演、大学行事での自主公演、日本最大級の人形劇イベントである「いい大人形劇フェスタ」での外部公演など、様々な場で人形劇を実践してきました。人形劇団 NEU の活躍を、これからもご期待ください。

○ ラオス学生団体 mary

私たち「ラオス学生団体 mary」

令和7年度 茗溪会学生生活活動支援事業採択団体・個人一覧

番号	団体名・個人名	活 動 名	支援金額 (円)
1	天文研究会	天体観測、天体写真の撮影など天文に関する活動を幅広く行う	48,000
2	つくば院生ネットワーク	大学院生コミュニティの運営	45,000
3	筑波大学硬式野球部	硬式野球部秋季リーグホームゲーム	62,000
4	筑波大学医学ヨット部	筑波大学医学ヨット部	37,000
5	iGEM TSUKUBA	iGEM TSUKUBA	49,000
6	つくば市まちづくり学生団体かざぐるま	学生主体による地域の中で多様な人々が交流・活動できる場の創出～「くるくる桜マルシェ」を中心として～	66,000
7	筑波大学社会貢献プロジェクト写真部	芸術文化の入口としての体験型写真展示とワークショップ	44,000
8	学び場さくら塾	学び場さくら塾	22,000
9	HS CaT	筑波大の敷地内に住み着いた野良猫の世話・管理	54,000
10	PICNIC Tennis Team	テニスを通じた学内関係者の健康増進と学外者への大学のアピール	35,000
11	筑波大学ねっしー・自然教育研究会	夏季キャンプ	64,000
12	女子ラクロス部	第37回関東学生ラクロスリーグ戦参加事業	49,000
13	つくばろぼっとサークル	つくばろぼっとサークルロボットの製作及びロボットコンテストへの参加	58,000
14	インドワークキャンプ団体namaste!	インドのハンセン病コロニーでのワークキャンプ	48,000
15	Tsukuba Girl's Rugby	筑波大学に在籍する女子ラグビー選手の活動	58,000
16	筑波大学新入生歓迎委員会	新歓期間の運営における新入生の歓迎及び新入生の学生生活の支援に関わる活動	71,000
17	筑波大学フットサル同好会	競技フットサル	44,000
18	つくばりサイクルシリーズ実行委員会	第16回つくばりサイクルシリーズ	56,000
19	筑波大学お笑い集団DONPAPA	お笑いライブの開催・地元イベントへの参加・各種大会への出場	49,000
20	新開 俊智	エビデンスに基づいた筑波大学アスリートのトレーニング支援	38,000
21	日本マラウイ学生団体	2025年度渡航活動	45,000
22	アイスケート部	フィギュアスケート、スピードスケート	52,000
23	筑波大学学園祭実行委員会	筑波大学の学園祭である雙峰祭を実施する	100,000
24	バドミントン部	インターフロー（香港大学との交流）	38,000
25	筑波大学体育会漕艇部	第五回土浦桜川親水フェスティバル・第49回筑波レガッタ	74,000
26	将棋部	第9回つくば小中学生将棋大会	45,000
27	全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議	授業評価冊子『BRIDGE』の発刊	64,000
28	つくば鳥人間の会	人力飛行機の機体製作ならびに試験飛行	74,000
29	人形劇団NEU	学外公演に向けた作品制作と地域巡回公演の実施	75,000
30	ラオス学生団体mary	ラオス渡航体験プログラムの運営	34,000
31	TMP(つくばミュージックプロジェクト)	学園祭ライブ Produced by TMP	38,000
32	ひかりのや	ひかりのやプロジェクト	36,000
33	Nguyen Ngoc Lan Chi	つくばベトナム子供クラブ	38,000
34	筑波大学応援部WINS	筑波大学応援部WINS	79,000
35	筑波大鉄研「旅と鉄道の会」	RFCダイア運動フェスタへの参加	15,000
36	ミュージカル集団ESSASSA	ミュージカル集団ESSASSA	58,000
37	男子ラクロス部	男子ラクロス部	49,000
38	筑波大学体育会硬式庭球部	【筑波大学共催事業】 筑波大学MEIKEIオープンテニス2026	69,000
39	筑波大学宇宙技術プロジェクト	能代宇宙イベントへの参加	72,000
40	筑波大学探求型国際交流プログラム推進委員会	筑波大学社会貢献プロジェクト(令和7年度)「日韓の青少年による探求型国際交流プログラムを活用した交流事業」	46,000

総額 2,098,000

は、NPO法人Wisaと共催で、高校生・大学生向けにラオスでのステイアアッププログラムを開催しております。

今年の8月は二人の高校生に参加してもらい、一人は教育ボランティアとして日本文化教室を開催しながらラオスの学生の考え方について学びました。もう一人はラオスの精霊信仰を学ぶために田舎にホームステイに行きインタ

ビューを行いました。二人とも非常に学びになったと言ってくれて私たちも嬉しかったです。

10月13日に渡航後報告会を筑波大学で開催致しました。

○ひかりのや

私たち「ひかりのや」は、筑波大学一の矢学生宿舎付近にて、光る植物を用いたライトアップイベントを企画し

ています。

一の矢宿舎周辺は、普段は人通りが少なく暗い印象を与える一方で、豊かな自然に恵まれた地域です。本イベントでは、その自然の魅力をライトアップによって広く伝えるとともに、光る植物という先端的な科学技術を身近に体感いただける場とすることを目的としています。イベントを開催すべく、筑波大学遺伝子実験センター等のご協

力をいただきながら、準備を進めていきます。

○男子ラクロス部



日頃より、ご支援いただきましてありがとうございます。筑波大学男子ラクロス部です。

ラクロスは日本において大学生を中心に親しまれているスポーツです。激しいコンタクトや、時に時速140kmを越えるシュートが特徴で、「地上最速の格闘球技」と呼ばれています。

我々は年に一度夏に行われるリーグ戦での勝利を目指して、週五日、筑波大学内セキショウフィールドにて活動しています。「一部昇格」を部の目標に掲げ、現在所属している二部リーグからの昇格を目指します。

応援のほど、どうぞよろしくお願い致します。

筑波キャンパスでの キャリア支援レポート'25

筑波事務所 瀧下 芳彦
(昭和56年基礎工卒)
キャリアコンサルタント／産業カウンセラー

筑波事務所は、筑波キャンパスの中央部にある学生会館内にあり、学生に最も近い場所で活動しています。茗溪会が筑波キャンパスを中心に継続的にを行っているキャリア支援活動は、現在以下の5つです。

- ①OB・OGキャリアアカフェ(年2回)
- ②就活／キャリアについてのぶっちゃけ質問会・相談会(月1回)
- ③OB・OG訪問(常時予約受付)
- ④個別キャリア相談(常時予約受付)
- ⑤対面面接練習(常時予約受付)

今回は、これらの活動とは別に、7月に臨時開催された「OB・OGキャリアアカフェ@社会学類」について現場レポートをお届けします。

OB・OGキャリアアカフェ

@社会学類

2025年7月22日(火)開催

●企画の背景

2019年から毎年2回実施している恒例企画「OB・OGキャリアアカフェ」。その第13回目の開催まで3週間と迫った6月上旬の事、社会・国際学

群社会学類の学生(クラス代表者会議議長)から以下のメールが届きました。

「：弊会では『進学就職相談会(春)』の開催を計画しており、貴会のご協力を得ることができないかと考え、ご連絡差し上げました。従来、弊会では冬季にのみ『進学就職相談会』を実施してまいりました。しかし、近年は夏季にインターンシップへ参加する学生が増加しており、事前に業界理解や進路選択のためのガイダンスの場を設ける必要性を強く感じております。そこで、大学のヒューマンエンパワーメント推進局とも連携されている茗溪会様のお力添えを賜りたく、ぜひご協力をお願い

いできればと存じます：」

これを受け、早速、該当学生との打ち合わせを実施し、夏休み前に社会学類生のみを対象とした「OB・OGキャリアアカフェ@社会学類」を開催することが決定しました。前述のように、この時には「第13回OB・OGキャリアアカフェ」の開催準備中でしたが、さらにその一ヶ月後に本企画を開催すべく、翌日から2つのイベントの開催準備に入りました。

●企画のポイント

・これまでのキャリア支援イベントは、大学(ヒューマンエンパワーメント推進局)側と協議の上、茗溪会が主催元となり開催してきました。今回は、初めて学生側が主催元になり、茗溪会側は共催という位置付けとなりました。具体的には、企画案作成、卒業生募集および当日の運営を茗溪会が担当し、学生への広報、開催場所の確保、

会場作りおよび当日の受付等を学生が担当しました。また、開催にあたっては学生だけではなく、学類長(明石純一先生)をはじめ、社会学類の教職員の方々のご支援・ご協力を得ながら準備を進めました。

・「これから夏休みに入るまでは、期末試験も含めて、授業が忙しい」という社会学類生の意見を踏まえ、開催時間は、6限授業の終了後の18時半からの開始と決定しました。参加する卒業生も同じく社会学類卒であることに加え、平日の夕刻に筑波大学に来て協力をしてもらえることを条件に急ぎ、募集を実施し、左表の5名に決定しました。

同時並行で準備を進めた2つのイベントの比較

名 称	第13回 OB・OGキャリアアカフェ	OB・OGキャリアアカフェ @社会学類
開催日時	2025年6月25日(水) 15:30~19:00	2025年7月22日(火) 18:30~20:30
開催場所	第二エリア大食堂	共同利用棟A(教室)
主 催	一般社団法人 茗溪会	筑波大学 社会・国際学群 社会学類 クラス代表者会議
共 催	筑波大学 ヒューマン エンパワーメント推進局	一般社団法人 茗溪会
対象学生	全学群・大学院生	社会学類生
参加卒業生	24名	5名
第一部内容	交流会(卒業生2名/組) 30分×4回	パネルディスカッション 30分
第二部内容	懇親会 60分	交流会(卒業生1名/組) 25分×3回
開催形態	対面	対面/オンライン (オンラインは第一部のみ)
参加学生 (実数)	41名	29名 (オンライン6名含む)
参加学生 (延べ数)	104名	62名
学生一人が話を 聞いた卒業生	5.1名 (平均値)	2.7名 (平均値)

参加卒業生(5名)

企業・団体名	職 種	卒業年
日本経済新聞社 (日経BP社へ外向)	編集、経営	1994
茨城県庁	人事	2010
コニカミノルタ株式会社	経理	2023
全日本空輸株式会社(ANA)	運航管理	2003
株式会社 電通PR コンサルティング	コンサルタント	2014

- 「夏のインターンシップを企業側がどのように見ているか等の本音のところを聞いてみたい」という学生の意見を踏まえ、「新卒採用の本音」と題するパネルディスカッションを第一部の企画内容としました。パネラーとして面接官、人事担当およびリクルーターとして採用に関わりをもつ卒業生3名にお願いしました。
- 続いて、第二部では、さらに詳しく話をしてみたい卒業生のところを集まって自由に話を聞く形の交流会を25分単位で3回実施することになりました。

●今回の結果

- 第一部のパネルディスカッションには29名(うちオンライン参加は6名)の学生が参加し、就活に関する質問に対するやりとりが活発に実施されました。

- 第二部の交流会には計3回を通じて延べ62名の学生が交流しました。また、1人で別々の卒業生3人と話を聞いた学生が多く、OB・OGキャリアカフェの開催目的である「様々な仕事や働き方を知る機会を作る」という幅広い交流が実現されました。
- 学生も卒業生も同じ「社会学類」という繋がりがあるせいか、これまでのOB・OGキャリアカフェよりもさらに親密かつ熱心にやりとりをしているように感じました。

●学生の感想

- 社会学類の先輩から、就活・仕事のことを聞ける貴重な経験だった。

- まだまだ先だと思っていた就職に関心を持ち、また、危機感を得ることもできた。
- 大学が開催する企業説明会よりもフラットで話しやすかった。
- 就活に対する漠然な不安が解消された。
- 就活の採用をしている方からの目線の話を聞くことができたのと、自分が今後どのような行動をすればいいのかがわかった。
- ネットでは知ることができない生の声を聞くことが出来た。
- 大学の過ごし方を考える上でとても役立った。

●卒業生の感想

- 在校生の方と直接話せることで、これから就活をしようとしている世代の方々の意識を感じることができた。
- 学生と近い距離で交流ができ、学生からも活発な質疑があった。
- 学生の悩みや考えを知ることができ、今後自分が業界のことを学生に説明する際の参考になった。
- 在学生が熱心に話を聞いてくれたり、積極的に質問してくれたことで、自分の話が誰かの参考になっていると実感でき、非常に嬉しく思うとともに、普段の仕事では得られない刺激も得られ充実した時間を過ごせた。
- 他の卒業生の先輩方のキャリアにも触れることができ、視野が広がる貴重な機会となった。自分自身を見つめ直すきっかけにもなり、参加してよかったと感じた。



交流会(1)



主催者挨拶→パネルディスカッション



集合写真(左端：明石学類長)



交流会(2)

第15回 定時総会

日 時：令和 8 (2026) 年 6 月20日 (土) 13：30～15：00
(受付 13：00～)

会 場：茗溪会館(2F 受付) 文京区大塚1-5-23

交 通：地下鉄 丸ノ内線 茗荷谷駅から徒歩 3 分(220m)
有楽町線 護国寺駅から徒歩 9 分(710m)
都バス 02系統 窪町小学校バス停から徒歩 1 分



茗荷谷駅方面から見た茗溪会館

第15回定時総会当日の日程は、以下の内容を予定しております。

なお、定時総会終了後、懇談会（参加費無料）がございます。

*午後の長い日程ですが、ご予約いただけますよう、よろしくお願いいたします。

第15回定時総会並びに懇談会の時程(案)

I 定時総会 会 場：2 階「茗溪の間」

参加者：代議員及び代理人

13：30 開 会

13：45 議 事

(1) 議 案

第 1 号議案 令和 7 年度事業報告、決算書類及び監査報告の承認について

第 2 号議案 令和 8 年度 事業計画(案)及び予算(案)について

第 3 号議案 令和 8・9 年度新役員の選出について

その他

14：30 (2) 報 告

・異業種交流について

・その他

15：00 閉 会

II 懇 談 会 会 場：2 階「茗溪の間」

参加者：代議員及び代理人、本部役員等

15：30 懇談会

16：45 宣揚歌合唱

17：00 閉 会

* 茗溪会館 1 階はレストランです。総会前のランチにいかがですか？

嘉ノ雅 茗溪館(カノビ メイケイカン) 茗溪会員は10%割引

☎03-5319-1890(予約) 込み合いますので予約をお勧めします。



第8回 医薬品・関連業界 交流会報告

【日時】 2025年7月4日(金)
18:30~21:00
【場所】 茗溪会館



近年、医薬品の開発・製造力強化が必要なことから創業ベンチャー、スタートアップ支援の強化が叫ばれています。今回、最前線で活躍するS M B C日興証券株式会社の高橋政治さん(生物資源学類卒)に話題提供頂き、議論を交わしました。

高橋さんは、主に創業ベンチャーの上場へ向けた審査や、上場時の投資家への説明などの支援を実施しています。ディスカッションでの主なやり取りを紹介します(以下、敬称略)。

◇ ◇ ◇

【高橋】医薬品の開発には膨大な時間と費用がかかる。10~15年以上かかる場合も少なくなく、開発費用も数百~千億円以上になる。製薬会社単独での新薬開発には限界があり、多くの創業ベンチャーとアライアンスを組む、もしくは吸収合併するビジネスモデルが主流となりつつある。ただしそのためには、多くの創業ベンチャーが育っていることが大前提だが国内においてはなかなか難しい。そもそも、ベンチャー企業には求められる成果物を創出するための資金が不足している。一方、投資する側としては、売り上げのない段階で資金投入するわけで、客観的な

判断材料が欲しい。従って、ベンチャー企業にとっては、IPO(株式公開)が解決策となり、資金調達の道が開かれる。大まかなIPOの条件としては、(1)知財戦略の確立、(2)開発段階がヒトPOC以降、(3)開発品の上市後のサブライチエーション確保——などがあり、条件が満たされていないと、投資家に興味を持ってもらえない。何より、実際に患者に投与したときの臨床試験データを有していること、また、上市までの時間が短いことが評価される。

【参加者】どのくらいの上場があるのか。
【高橋】現在、バイオベンチャーは63社上場されている。新規上場のペースとしては年間に2~3件程度。ただし、足元では市場全体としてバイオベンチャーのIPOは厳しく、時価総額は軟調に推移している。調達額も十分とは言えない。

【参加者】日本の場合、VC投資家の資金面の支援として「薄く広く」が多いようだ。

【高橋】最近では、VCに加え、国の支援も以前と比べ手厚くなってきている。10年間で3千5百億の公的資金が確保された。資金不足の問題が解消されると思う。創業力強化は、新規ベンチャー企業、マーケット、ビジネスを生み出すとともに、経済安全保障の観点からも重要な戦略だ。

【参加者】3千5百億円投入して、どのくらいの効果が出るのか。

【高橋】採択70社、その中から1千億規模の企業を累計14社ほど育成することを目指しているが、2千億の投資に對して6千億の市場が見込めないとリターンも期待できない業界で、実際は厳しい。しかし、生命関連性製品である以上、社会に必要な産業。リスクを

取りつつリターンを確実にするための戦略的投資が必要だ。

【参加者】グローバル市況としては？

【高橋】米国ナスダックにおいても、直近数年ではバイオテック関連のIPO規模は低調だ。世界的にも、2022年以降バイオベンチャー市場の株価は伸び悩んでいる。米国金融経済が混乱していることによると考えられる。

【参加者】よく、「日本は研究レベルや技術力が高いが、それをビジネスにする力が弱い」と言われる。

【高橋】大学発ベンチャーは、製薬企業が開発したい(導入したい)と思える製品を作ろうという「プロダクトアウト(企業の技術や意向を優先して製品開発する方法)」の発想が乏しい。初期の段階から市場における共通の最終ゴールを見ることが求められる。

【参加者】それでも、良い技術があれば世界中から買いに来てくれるはずでは。技術があるのに見つけてもらえてない？

【高橋】そうではない。見つけてもらえた上で、買われていないのが現実。残念ながら日本は技術や市場は発信力(魅力を伝える力)に欠ける。ゲノム編集技術などは画期的な優れた技術を有しているが、結局、米国に先を越される例も。要するにスピードが足りない。

【参加者】実にもったいない話だ。

【高橋】バイオベンチャーは、国内ではなく、米国市場への展開を考えるのは極めて自然な判断。中国市場に特化する戦略をとる企業もある。中国は資金が潤沢で、IPOについても比較的柔軟だ。

【参加者】ますますもって、日本が衰退の一途をたどる？
【高橋】資金の壁に、戦略の問題がある。

技術はユニークであっても、プロダクトアウトする段階で製品としての魅力がない。さらにスピードがないのに加え、最も肝心なのは人材の問題。日本のバイオテック産業を強化するには、これらの課題を解決することが重要だ。現在では政府からの支援を含め、競争力強化に向けた取り組みが進行中であり、ベンチャー企業の方々の考え方も変革しつつある。今後世界に伍する企業が育っていくことを期待したい。

◇ ◇ ◇
交流会は8回を迎え、会を重ねるにつれ討議のテーマも深まっています。関心のある方々のご参加をお待ちしています。

(91年理工学修士卒 野口道子 記)
*本記事の詳細は、以下のQRコードにより茗溪会ウェブサイトでご覧いただけます。



交流の輪を広げませんか？

●他大学では薬学部同窓会等で情報交換をしていると聞き及びます。筑波大学には薬学部はありませんが、医薬品及び関連業界関係の方々が多くいらっしゃるようです。母校に薬学部が無いということは逆に広く大きな輪になる可能性もあります。皆さんで交流の輪を広げませんか？交流の輪に加われる方、関心のある方は、下記連絡先に一報下さい。

茗溪会事務局(大塚事務所)
☎03-3941-0136、E-mail: peer@meikei.or.jp



学生たちが大きな輪を幾重にも作っている。時計回りの輪もあるし、逆回りの輪もある。…踊っている。いつ頃の写真だろう。

Peer Garden

茗溪アルバム 茗溪創基150年記念事業

茗溪150年の思い出を紡ぎませんか？

二人のお嬢さん II

丹野薫子(23女子農教)のアルバムに
あった一枚である。



丹野薫子は、昭和23年に女子農業教員養成所を卒業した。アルバムは、卒業記念品で、「東京農業教育専門学校女子第一回卒業記念」と記されていた。左上は校章である。

学生たちが大きな輪を幾重にも作って、踊っているが、盆踊りか、フォークダンスだろうか。

事務局のスタッフは、この写真を見て、「炭坑節」を踊っているのだという。

戦後、石炭産業は敗戦国日本の復興を支える基幹産業となった。「炭坑節」は、毎日のようにラジオから流れた。筑豊を発祥とする「炭坑節」は、落盤・炭塵・ガス爆発など死と背中合わせの現場で働く炭鉱労働者の仕事唄であった。

現場の過酷さや緊迫感とは裏腹に、ラジオから流れる「炭坑節」は明朗軽快であった。それは、人々が敗戦の惨めさと虚脱から立ち直るために必要な楽曲と踊りであったのかもしれない。

フォークダンスが日本に導入されたのは、戦後一年後で、連合国軍最高司令官総司令部の民間教育担当者が長崎でスクエア・ダンスを紹介して以来である。フォークダンスの代名詞ともなっている『オクラホマ・ミックス』が世に出たのは、昭和27(1952)年であった。

盆踊りかフォークダンスか：議論は尽きないが、一枚の写真で、その時代を思い遣るのは嬉しい作業である。

同じアルバムに、「駒場大運動会」の写真があった。右柱には「東京農業教育専門学校」の看板が掲げられ、その横に、受付をする女子農業教員養成所の学生の姿が見える。丹野が入学して翌年の11月かと思う。



20を消して、21.11だろうか。駒場キャンパス運動会会場入り口の風景である。

その翌年の秋、丹野ら一期生最終学年の駒場祭の様子である。トラック前面に取り付けた看板に開催日(7・8・9日)が記されている。前年の「駒場大運動会」はどうなったのだろうか？



昭和23年秋、「駒場祭」のアーチを背景に記念撮影をする一団は、その年の春に卒業した一期生である。後輩の応援や手伝いに来たのかもしれない。

アーチの左に、「東京農業教員養成所」と「女子農業教員養成所」の看板がある。3年後に、四期生を送り出して、女子農業教員養成所は閉所した。



11月下旬に、東京大学駒場キャンパスで開催される「駒場祭」は、今年で75回を迎える。昭和25（1950）年が初回らしいから、東京農業教育専門学校の「駒場祭」はそれ以前に行われていたものと思われる。東京農業教育専門学校は、昭和27年に閉校した。昭和12年の開校以来、15年の校史を閉じた。

さて、冒頭の写真は、「駒場大運動会」か「駒場祭」、いずれかのイベントのようである。見学に来たのだろうか、セーラ服姿の女生徒も見える。

大きな輪の向こうに建物が見えるが、『駒姫会小史』の裏表紙に掲載されていた「昭和26年3月頃の駒場」（中村重正氏による）を参考に、当時の駒場の様子を写真の中に窺えるかもしれない。

●当時の駒場

丹野と同年に東京農業教育専門学校に入学した林昭二（S24農教）が、「駒場ヶ丘の暁の鐘―農教時代」（『駒のいななき』最終号、S53）と題した特集の冒頭で、当時の学生寮について回想を寄せていた。

駒場に寮が開設されたのは、昭和20年秋の頃と、林は当時の記憶を辿る。

初めに、中寮と南寮が開かれた。戦地や動員先から続々と復員・帰校してくる学生のために、急遽開設された。

「輜重連隊の二階建兵舎を改造した中寮跡が：附属駒場高校であり、グラウンドを隔てた平屋建の小さな兵舎が南寮でこの方は2年位続いたろうか。池尻方面の低地を見渡せる崖の上」にあった。

●学校がない

女子農業教員養成所開設当時の植谷鉆による「日記抄」である。

昭和20年9月12日

元陸軍獣医学学校駒場分校の施設を借用して事務を行う。（『駒姫小史』参照）

女子農教事務所として借り受けていた獣医学学校駒場分校の施設は、北寮となり、馬の繋留、水遣り、飼葉を食わせる施設は、学生達の洗濯場や洗面所として利用された。（『駒のいななき』参照）

同年10月5日 晴

本所再開の場所につき学校長も種々苦心し：都内における女学校の空校舎借用につき吟味調査交渉：を続けるものの、不首尾に終わる。

同年10月7日 晴

本校会計課員の戦災者家族：居住し居る修練場を女子寮とし、教室は男子と同所の本校内にて授業することとす。

「井の頭線の旧駒場駅の真下の水田を隔てた真向いの小高い丘には、女子寮として早苗寮（前掲）があると記されており、「駒姫会年表」は、同年10月14日に、早苗寮は設立されたと記している。

同年10月18日 晴

かねて通知せし35名の本所女生徒歓喜して入寮す。余りの10名女生徒は都内居住につき通学とす。

終戦後、女子農業教員養成所はここに再出発す。

●再出発

再出発は、「前庭の防空壕を埋めることから始まった」（竹山一子「夕映えにカンナの燃える敗戦忌」『駒姫小史』p3）

晩秋の冷気と、「何から何まで敗戦のみじめさと兵隊の臭いで、全くがらんとした校内で講義が始まる。「爆弾よけの汚れた紙片の貼られたガラス戸、うすきたない小黒板、大小不揃いのザラザラの机、それに木箱を腰掛」にして、「ガラスの破れた窓から寒風の吹き通す飾気一つない教室で、外套にくるまっつて」講義を受ける少女達であった。（村松七郎「追憶」前掲p59）

再出発に挑む少女に、「附属物ではなく並立するものだ」と、植谷は少女達が「女子部」というのを何度も訂正した。（竹山一子、前掲）



祖師谷農場にて田植えの実習（昭和22年）。実習体験を活かし、早苗寮で自給園を営んだ。また、「狭いが二反歩の水田作業、自分等で育てた苗代の雀追ひの甲斐あって、今迄にない増収だったというので一同喜び合った事も思い出である」（村松七郎「追憶」前掲）

●戦時教育から平時教育へ

植谷鉦が獣医学校駒場分校の施設を借用して事務を始めた9月12日は、文部省が国民学校及び中等学校に対して戦時教育を平時教育へ転換させることを緊急事項として指示した日でもあった。

9月15日には、「新日本建設の教育方針」を発表し、戦時教育体制の一掃と国民学校の授業を平常に復帰させることを明確に示した。終戦後わずか一か月後である。この教育行政の迅速な動きの中に、日本が明治以来「教育」を国民国家形成の枢要に据えてきたことが窺える。

●明治18(1885)年

植谷鉦は明治18年、熊本に生まれた。茗溪会設立から3年を経ており、政治や教育の場面で画期をなした年でもある。

この年の暮れに、太政官制から内閣制に変わり、伊藤博文が初代総理大臣、森有礼が初代文部大臣となった。夏には、改正教育令が布告されていた。

●二人の九州人

近代日本の学校制度の基盤づくりは、森有礼と井上毅という、二人の九州人によって手掛けられた。在任期間は、短期間ではあったが、その間に、学校制度の基盤が整えられた。

森は教員養成をはじめとする学校制度全般を、井上は、初等・中等教育学校から帝国大学に至るまでの各段階の接続を明確にし、円滑化を図るなど、学校体系の近代化を図った。

年度	初等学校				中等学校		
	就学率			児童数(上段) 教員数(下段)	生徒数(上段)/教員数(下段)		計
	男児(%)	女児(%)	平均(%)		中学校	高女校	
1887	60.3	28.3	44.3	2,713,391	10,177	2,363	12,540
	中学校令(1886)			56,836	561	136	697
1894	77.1	44.1	61.7	3,501,171	22,515	2,314	24,829
	高等学校令(1893)			63,035	1,100	166	1,266
1900	90.6	71.7	81.5	4,683,598	78,315	11,984	90,299
	第3次小学校令(1900)			92,899	3,748	658	4,406
1902	95.8	87	91.6	5,135,487	95,027	21,523	116,550
	臨時教員養成所規程			109,118	4,681	1,173	5,854

文科省『学制百年史』（資料編「明治6年以降教育累年統計」）を参考に作成した。下の「明治35年以降の中等教育学校の生徒数と教員数の変遷」も同様である。



井上 毅 1844-1895
肥後国熊本城下
文相1893.3.7~
1894.8.29



森 有礼 1847-1889
薩摩国鹿児島城下
文相1885.12.22~
1889.2.11

森が文相に就任した翌年の尋常小学校の就学率は50%に満たなかったが、井上の文相時代には、60%を超えた。

森は凶刃、井上は肺結核に斃れ、文相在任は二人併せて4年8か月に過ぎないが、「志半ば」とは言えないほど、この短期間に仕事をやり遂げた感がある。

●明治35(1902)年―臨時教員養成所

明治33(1900)年の「第3次小学校令」は、授業料の廃止、修業年限の統一(4年制の尋常小学校に2年制の高等小学校の併置を奨励)をもって義務教育制度の確立を促した。

翌々年の明治35(1902)年には、就学児童は500万人、就学率は90%を超えた。

また、中等教育学校においては、生徒数116,550人(教員数5,854人)となり、15年ほど前(1887年)に比較して、生徒数(9.3倍)と教員数(8.4倍)ともに激増しており、平均すると、毎年、7,000人程の生徒数の増加に対して、350人程の教員が増員される計算となっていた。

明治35年以降の中等教育学校の生徒数と教員数の変遷

年度	生徒数			教員数		
	中学校	高女校	計	中学校	高女校	計
1902	95,027	21,523	116,550	4,681	1,173	5,854
1912	128,973	64,871	193,844	6,220	3,200	9,420
1913	131,946	68,367	200,313	6,276	3,315	9,591
1914	136,778	72,140	208,918	6,453	3,413	9,866
1915	141,954	75,832	217,786	6,575	3,535	10,110
1916	147,467	80,767	228,234	6,702	3,654	10,356
1917	153,974	85,430	239,321	6,782	3,806	10,588
1918	158,974	94,525	253,499	6,991	4,082	11,073
1919	166,616	103,498	270,114	7,219	4,410	11,629
1920	177,201	125,588	302,789	7,665	5,241	12,906
1921	194,416	154,470	348,886	8,242	6,353	14,595
1922	219,101	185,025	404,126	9,007	7,492	16,499
1923	246,739	216,624	463,363	10,129	8,672	18,801
1924	273,065	246,624	520,003	10,861	9,688	20,549
1925	296,791	275,823	572,614	11,748	10,742	22,490
1926	316,759	299,463	616,222	12,446	11,604	24,050

母校昇格運動の翌年(1920年)には、生徒数が30万人を超え、教員数も13,000人に届く状況で、明治35(1902)年以降、中等教育学校への進学率は急勾配で上昇していることが分かる。

明治35年、この年、政府は「臨時教員養成所設置案」を閣議へ提出した。

現今師範学校中学校及高等女学校等二於ケル教員ノ欠乏著シク是等学校ノ増設又ハ教務ノ拡張ニ伴ヒ倍々其不足ヲ告クルニ至レリ依テ臨時教員養成所ヲ設置シ教員補充ノ途ヲ図ルハ目下ノ急務ナルヲ以テ臨時教員養成所官制及同所教授ノ官等俸給ノ件制定相成度別紙勅令案ヲ具シ閣議ヲ請フ

法制局の了承を経て、3月29日には、「臨時教員養成所規程」として結実し、臨時教員養成所関係法令が整った。

「臨時教員養成所規程(文部省令第八号)」の主な条項は以下の通りである。

第一条 臨時教員養成所ニハ国語漢文科、英語科、数学科、博物科、物理化学科ノ一学科若ハ数学科ヲ置ク

第二条 修業年限ハ二箇年トス(後に、一箇年乃至三箇年となる)

第十一条 入学試験ハ中学校卒業ノ程度ニ依リテ之ヲ行フ但シ中学校及師範学校ノ卒業者ニ限り時宜ニ因リ試験ヲ行ハサルコトヲ得

第十七条 臨時教育養成所ニ於テハ授業料ヲ徴収セス

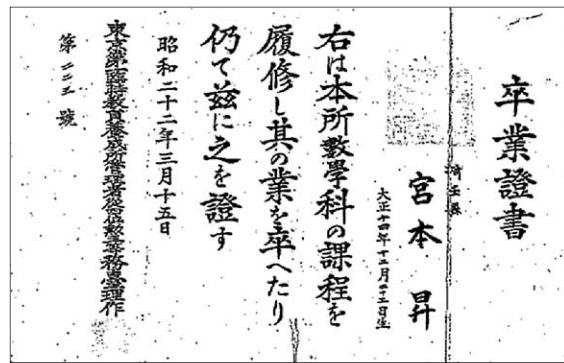
以後、昭和24(1949)年の「国立学校設置法」によって、「臨時教員養成所官制」が廃止されるまで、関係諸法令は存在し続け、臨時教員養成所は戦前日本の中等学校教員養成史に無視できない機能を果たした。

●東京第一臨時教員養成所

宮本昇が「東京第一臨時教員養成所」を卒業したのは、丹野薫子が女子農業教員養成所で最終学年を迎えた昭和22年春である。

宮本昇は昭和18年春に、巣鴨中学校を卒業したが、肺結核を患い、徴兵免除と共に療養生活を余儀なくされていた。

その後、病状が快癒し、昭和19年には、「東京第一臨時教員養成所」に入學したと思われる。



卒業証書の授与者は、「東京第一臨時教員養成所管理者 従四位勲三等務台理作」とあり、卒業生番号は「第223号」である。

●東京大空襲

務台理作が東京文理科大学学長兼東京高等師範学校長に就任したのは、昭和20年6月13日で、空襲で大塚校舎が焼け落ちて3週間程後のことである。

5月25日の夜、主事補の松本利一郎（S16文二）は、桐花寮が火焰に包まれる中、全学生に「布団は防空壕の中に入

れ、上からスコップで土をかけよ。身の回りのものは持てるだけ持ってプール（S16文二）の周りに集合せよ」と命じた。人員を確認してお互いにバケツで水を掛け合った。占春園を東に横切り植物園に向った。火の海である。ここも安全ではない。桜井、夏迫両主事補と相談の末、前の空襲で焼け野原となっていた巣鴨に向かった。午前2時頃、辿り着いた巣鴨の路傍に腰を下ろして眺めると寄宿舎あたりが真っ赤にみえる。まだ燃えていた。（松本利一郎「桐花寮の最期」『茗溪』926号、p5）



1945年5月25日の夜半の空襲で、母校は降り注ぐ焼夷弾の中で焼け落ちた。焼け残った西館の前に佇む学生の姿が見える。翌日、学生たちは一時帰宅の指示を受けていた。

「空襲による火災件数も増加し、入営延期されていた我々理科の学生は近くの火災消防署に動員された」と、八乙女盛典（S23理二）の回想である。

「当日私は消防署が非番であったので寮にいと、夕方空襲警報が出て、多数の焼夷弾が投下された。私の居た

隣室が最初に被弾出火した模様で、それから各所から出火し、空襲火災では火勢が強く、危険を感じてその場を逃げ出そうとして周囲を見渡すと、どこも火で逃げ道がなくなり、焼死を覚悟した。本当に死ぬと思ったことは生れて初めてだが、何の感慨も浮かばず、ただ茫然としてしまつて何もわからなくなつた。空が明るくなるに近づくやつと我にかえり、五時半頃学校の校庭に帰ることができた。この後全員は罹災証明書（区役所発行）を受け取つて、それぞれ自分の帰るべき所へ帰宅した。（『私の歩んだ道』改訂版p46）

●焦土に建つ茗溪会館

「首都東京の表情は誠にじめじめでつた」と熊沢龍（S7文）は回想する。「校舎の大半を失った母校の姿も惨憺たるものであつた。わずかに焼け残つた西館と、間借り（S7文）の茗溪会館が辛うじて、文理大と高師の教育機能を荷つていた。（『図書文化二十五五年史』p146）



旧茗溪会館は、1929年に建設動議が出され、1933年に竣工した。設計は中条精一、地下1階地上4階建て、近世式一部鉄骨鉄筋コンクリート造であつた。

東京大空襲を受けて焼け野原となつた大塚の地で、茗溪会館は奇跡的に戦火を免れた。

西山松之助（S15大國史）も、茗溪会館の思い出として、終戦直後を回想する。

「戦後、文理大高師の本館やE館が出来るまで、茗溪会館の一階寺崎写真館のところが高師の幹事室、その真上の部屋が文理大高師の学長室になつてたことである。これはかなり長期で務台理作とか杉村欣次郎その他何代かの学長があつた部屋に居られた。（『さよなら茗溪会館』『茗溪』1001号、p4）

宮本昇は巣鴨に住んでいた。前の空襲で焼け出され、埼玉の吉川に避難を余儀なくされた。

大空襲の翌年に入学した小野重典（S25理二）は、当時の授業事情を回想する。「全校生徒に対し同時に授業を行うことは教室不足で出来ないで、生徒を文科と理科の半分宛に分けて交代の授業を行うことになった。そんな訳で我々は十月から十一月十五日まで休暇に入つた。地方から来ていた人達は下宿し或いは学校の寮などに入つてしたが、食糧不足で一か月持ちこたえないのがやつとという人が多かったと見え、皆飛びように故郷に帰つて行つた。しかしその中には十一月授業再開時に学校に戻つて来ない者もあつた。（『廃墟からの再出発』東京高等師範学校理科二部卒業50周年記念誌『譲葉』）

*文中では、敬称を略させていただいた部分もございます。ご容赦ください。

少子化時代を迎えた大学教育と筑波大学の取り組みについて

坪内 孝 司

筑波大学特命教授・先端教育学推進機構長、83年第一学群自然学類卒業、88年大学院博士課程工学研究科修了

1 「知の総和向上」答申に寄せて

本年2月、中教審から『我が国の「知の総和」向上の未来像〜高等教育システムの再構築〜』が答申⁽¹⁾された。2040年に学士課程に進学する18歳人口が46万人となり、2024年比で約3割減少となる予測を前提に、我が国の「知の総和」が向上していく未来像を描いている。目指すのは、「一人一人の多様な幸せと社会全体の豊かさ(wellbeing)」の実現を核とした、持続可能な活力ある社会⁽²⁾である。その実現に、①「知の総和(数×能力)」を向上することが必須⁽³⁾とされ、②「教育研究の質を上げ、意欲ある全ての人が高等教育を享受できるよう社会的に適切な規模の高等教育機会を供給し、地理的・社会経済的な観点からのアクセス確保によって高等教育の機会均等の実現を図ることが必要⁽⁴⁾」とされた。①からは、教育の質のさらなる向上と、大学院への進学者の増加(文理とも)で大学における学修期間を長くとり、②について、地方の大学も、大都市にある研究型大学も、ともに18歳人口を対象とした学士課程の募集人員を見直すこと等も盛り込まれた。今後、様々な政策誘導があるろう。

思うに、高卒直後の年齢層の募集人員を減じても、我が国の知の総和がさらに向上するためには、知の創出の担い手である学修者や大学教員等の総数を減じるのは得策ではないだろう。大学院課程への進学者増、学士・大学院の両課程における社会人の学び直し、留学生の増加につなげ、教育の質向上と研究力強化がより求められるだろう。これは、大学に在籍する学生の多様化を招くが、それでも学士から大学院課程にいたる学修の質を高め、学生にとってより満足度の高い教育をするように変わることが求められる。

一方、荻谷・吉見は、文献⁽²⁾にて、ハーバード大学などの例を参考に、学生が受講する週当たり科目数の減と同一科目のコマ数の増でその学修に集中、教授内容も厳選、学生自身の思考力のさらなる涵養に向け、日本の大学の授業方法も変わることを提言している。またオックスフォード大学の文献講読と文章執筆を伴うチュートリアル(個別指導)で学生の思考力・表現力を鍛え、高いレベルの議論ができるようになる伝統的指導のしくみも紹介している。これらは学生にとって満足度が高く、質の高い学修環境の構築方法として極めて示唆に富む。18歳人口の減少と学生の多様化はまさに目前に迫っている。内外の様々な事例も参考にしつつ、筑波大学ならではの特性を十分に生かす教育のあり方を発展させたい。

2 筑波大学の教育研究の底流

本書の「建学の理念」には、「創造的な知性と豊かな人間性を備えた人材の

育成」とともに「変動する現代社会に不断に対応しつつ、国際性豊かにして、かつ、多様性と柔軟性を持った新しい教育・研究の機能及び運営の組織を開発する」ことが謳われている。50余年前に策定されたこの理念が、今でも色あせず、これを起草した当時の関係者の慧眼には敬意を抱くばかりである。2011年に策定された「筑波大学教育倫理綱領」には、教員は「すべての学生の個性と能力を開花させ、豊かな人間性と創造的な知力の獲得を促し、学生とともに知の拠点を共創することに努める」、「教養教育から専門教育にわたる教育内容・教育方法の改善を継続的に行い、かつ学生の自主的な学修を支援する」と定められた。現在実施中の第4期中期目標・中期計画(2022〜2027年)にも、「学生の個性と能力を開花させる教育手法を確立し、主体性・社会性を基盤として未来を創り出す力を生涯にわたって養い、世界で活躍できる人材を育成する」と記された。第4期から本学も指定を受けた「指定国立大学法人」の本学構想でも、「未来社会をデザインし創出できる人材」の育成を宣言した。本学には、社会で真に活躍できる人材が育つ環境の構築と整備を不断に実行し、時代の要請に対応しながら人材を育てる精神が開学当時から通底する。もちろん、これに応じて、多くの施策をこれまでに実施してきた。また、教育関連の競争的資金の獲得を目指すなど不断的な努力を積み重ねてきたことはいうまでもない。

3 創造力を養うこと

気づくのは、「創造性」あるいは「創造力」の涵養が前記のどれにも含まれることである。中教審の「学士課程答申(2008年)」や「グランドデザイン答申(2018年)」などでも「創造力」の重要性が繰り返し強調された。まさしく「創造力」は⁽¹⁾でいうところの「一人一人の多様な幸せと社会全体の豊かさ(wellbeing)」の実現⁽²⁾に必要な価値を生み出す原動力であろう。あるいは、地球規模的な諸課題に資する考え方の創造が、諸課題に向けたイニシアティブとリーダーシップの発揮につながり、wellbeingをもたらし社会変革を促す力ともなるであろう。

一方で、諸外国に比べ日本のZ世代の若者は自らを創造的であると感じている比率が低いという報告⁽³⁾や、日本の18歳の若者が諸外国に比べ自分を大人だと思いう比率が低いという報告⁽⁴⁾もあるのが懸念される。2008年から2021年まで4年ごとに行われた調査⁽⁵⁾では、「学生生活や知識・技能の獲得は大学の指導・責任」とする割合が毎度増加している傾向がある。この間の大学への進学率向上との関連も考慮すべきかもしれないが、これが学生の主体性低下を示すなら憂慮すべきである。本学に入学する学生層とこれらの報告とがどう関連するか精査は必要だが、本学開学以来通底させてきた「創造力」を含む豊かな人的能力の涵養を、18歳人口の減少と多様性の増加にも対応しながらいかに実装していくかが課題である。本書の教育も、学生自身が

学び修めた成果として備わった能力を、学生自身がより実感できる体制に遷移していくべき時機が来ているともいえる。「学生自身に創造力があるという自信がもて、その自信により多様な内発的動機が持て、さらに実践できるようになる」教育システムの構築が重要である。

4 チュートリアル学修の導入

本学は、前述の「指定国立大学法人」の本学構想にある「未来社会をデザインし創出できる人材」の育成に、つくば型の「チュートリアル教育」の導入を定めた。チュートリアルといえはオックスフォード大学のそれ⁽⁶⁾⁽⁷⁾がよく知られている。本学でも同様な個別指導を導入できることは一つの理想像ではある。しかし形を真似るだけでは実質が伴わない。本学ならではの特性をうまく織込み、学生の多様化にも対応しやすい個別的指導も積極的に導入し、学生の思考力や創造力をより高める学修体制を構築したい。「つくば型」を「チュートリアル教育」の前に冠するのもこれが理由である。「学修（＝学んで修める）」という語の方が学生本位としてはより適すると考え、「つくば型チュートリアル学修」と記載することも多い。

本学では、2021年度後半からつくば型チュートリアルの実装についての議論を始め、2023年3月に「つくば型チュートリアル教育の基本設計と導入計画（素案）」を策定した。この中で、つくば型チュートリアル教育の定義を、「筑波大学の学士課程において、

①入学から卒業まで一貫して行われ、②学生が、対話と議論を通した学びから専門分野とそれに連なる広範な分野への造詣を深め、③批判的・創造的な視点を持って社会と向き合い、④社会課題への解決策を未来に向けてデザインできる力を養うことができる教育」とした。目的は「（創造的）解決指向に則った思考（デザイン思考）」ができる人材の育成、「真に社会での課題解決を指向し、学問や物事を極め続ける方向」への学生の意識の「転換」、「未来社会をデザインできる人材の育成」、そして、「筑波大学が「真の総合大学」として地球規模課題の解決に貢献する人材育成」であり、手段として「個別指導」により個々の学生の思考過程を育てるものとした。その過程で、学生個人が自ら様々な調べものをするだけでなく、学内の様々な教員からアドバイスを受け、それによって学生の内発的動機の涵養や、より深い学問への理解促進が期待される。つくば型チュートリアル学修では、学士課程への入学直後から卒業まで6段階のプロセスを設定した⁽⁸⁾。

このような教育を全学的に実施するには、単に仕組みを整える以上に学生の受講意識や教員の教育意識が変わることも重要であり、段階的に進めていく。指定国立大学の本学構想では、2028年度までは40人規模、2033年度頃までは100人規模、2034年度以降に300人規模、2037年度以降には全学的に1600人規模までに、チュートリアル学修を実装する計画である。各学群・学類での学修内容の検討や見直

しも含め、目指す学修体系を規模拡大とともに実装していきたい。

2023年度末に「チュートリアル学修推進委員会」を発足させ、前述のプロセスの第1、第2段階に向け、まずは1年生の希望者を対象に「学問探究チュートリアル」と称する科目を40人定員で2024年5月から開設した⁽⁹⁾。受講生と、学群から推薦された20人程度のチュートリアル教員とが全員集まって行うワークショップと、受講生とチュートリアル教員が2名ずつ組で対話するチュートリアルセッションをセットにした。入学直後の学生が自らの問題意識を出発点に、自らの学修をデザインできるようにすることが学生の到達課題である。一方、教員側の課題は、学生と教員の間の心理的安全性の確保の方策や、実りある個別対話が成立するための方法論の獲得などであり、今後に資するよう議論を重ねている。

「学問探究チュートリアル」はこれまで本学で開設してきた科目とは性格も実施方法も異なる。しかし、2024年度を終えた印象として受講生の成長が明らかに実感できた。前半が終了した2025年度も同様な印象である。この科目を受講した学生たちが2年次以降にどのような活躍をしていくのが極めて楽しみである。この科目の受講後の学生にも折に触れて面会し、彼ら彼女らにとつてのこの科目の意義がどのようなであったのかも確認しつつ、チュートリアル学修の全学的な実装に向け、経験値をあげていく。

(1) 「我が国の「知の総和」向上の未来像―高等教育システムの再構築―（答申）（中教審第25号）」2025.2.12. https://www.mext.go.jp/b_menu/shingei/chukyoo/chukyoo/tou shin/1420275_00014.htm

(2) 荻谷・吉見『大学はもう死んでいる。トップユニバーシティからの問題提起』p.57-71、集英社新書、2020

(3) アドビ「教室でのZ世代未来をつくる」2017. <https://www.adobeeducate.com/genz/creating-the-future-japan>

(4) 日本財団『18歳意識調査』第20回テーマ「国や社会に対する意識」（9カ国調査）国や社会に対する意識 各国1,000人に聞く日本の若者の数字の低さ際立つ」2019. <https://www.nippon-foundation.or.jp/who/news/pr/2019/20191130-38555.html>

(5) ベネッセ「第4回大学生の学習・生活実態調査【データ集】」2022. https://benesse.jp/berd/up_images/research/4_daigaku_chousa_all.pdf

(6) 荻谷「イギリスの大学・ニッポンの大学」中公新書クラレ p.46-47 2012

(7) 荻谷・石澤「教える技術―問いをいかに編集するか」、ちくま新書2019

(8) 筑波大学2025年度「学問探究チュートリアル」パンフレット、<https://tutorial.edu.tsukuba.ac.jp/content/uploads/sites/83/2025/03/2025flyer4p.pdf>

(9) 筑波大学「学問探究チュートリアル」2024. <https://tutorial.edu.tsukuba.ac.jp/>



健康という言葉をめぐる

野村 良和

はじめに

健康という言葉（以下、「康健」）は、日常の会話やテレビや新聞・雑誌等に取り上げられる話題において、数え切れないほど用いられている。例えば、健康保険、健康問題、健康被害、健康対策、健康食品、健康運動、健康診断等など、あげればきりが無い。また日本国憲法の中には「健康で文化的な最低限度の生活」という文言があり、教育基本法においても「心身共に健康な国民の育成」との表現がある。しかしそれぞれにおいて「健康」の意味するところは、必ずしも同じとはいえない。この「健康」の解釈において一般に用いられるのが、WHO（世界保健機関）の見解である。そこでは「健康とは、病気でなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、全てが満たされた状態にあることをいいます（日本WHO協会訳）」と示されている。

全体の見直し作業において、「health」の定義についての改訂案が提示され、最終的な投票で賛成二二、反対〇、棄権八となり、一九九九年五月開催予定の総会の議題とすることとなった。その改訂案とは次のようなものであった。Health is a dynamic state of complete physical, mental, spiritual and social well-being and not merely infirmity.（太字は筆者による）つまり健康（health）とは「完全な肉体的、精神的、霊的（spiritual）及び社会的に良好な流動的（dynamic）な状態であり単に疾病や虚弱が存在しないということではない」と定義された。

（訳及び太字は筆者による）しかしこの改訂案は総会において審議されることはなかった。その理由としては、当時の全世界の健康（疾病）の情勢からして、より優先して論議すべきことが山積しているということであった。しかし実際には宗教やイデオロギーに基づく多様な価値観が存在する中で、「spiritual」を追加することの困難性を反映しているのではないか。とはいえ今後「health」という語の意味するところの論議を継続すべきであると考えられている。実際に英語圏においては「health」について、そして我が国においても「健康」の意味するところについては、様々な提案や解釈がなされている。

な解釈を可能としているため、時と場合によっては論議等のズレを生じさせることにもなる。ところでこれまでに我が国においてはいくつかの分野において、この「健康」の出自等についての研究が行われてきているので、ここではその一部の概要を紹介する。

1 「康健」と「健康」

今日においてはほとんど目にしない語であるが「康健」という言葉について広辞苑（第七版）では、「からだがいようぶなこと。健康。」と簡潔に説明されている。

この「康健」は中国の古い文献の中にあることは確認されている。例えば白居易（772-846）の漢詩や、金時代の歴史を記した『金史張行信傳』などの中で「康健」が使用されている。また臨済宗の禅僧である雪村友梅（1290-1347）による『宝覺真空禪師語録』（1346）にもその用例が確認されている。そして実は、貝原益軒（1630-1714）の『養生訓』（1712）においても「康健」が使用されている。

中国語学研究者の荒川清秀は、我が国では中国に古くから存在していた「康健」を使用しつつも、「健康」はそれとは別に日本人が創ったものであると推測している。荒川は当時のオランダ語辞書（邦訳）において「康健」が比較的多く使用されているが、同時に「健康」も散見される状況を確認している。

また当時の中国で使用されていた辞書においては、「康健」はあっても「健康」が無いことも確認されている。そして新たに創作する日本語としては、「健」+「康」の順は収まりが良く、逆に中国語としては不自然であることも指摘している。

そしてその後になって、中国において「健康」が使用されるようになったのは、日本からの影響ではないかと考えられている。

このような「健康」の創作について、国語学者の竹中憲一は、かつて「中国語と日本語における字順の逆転現象」がいくつかある中で、「健康」はその一例であると判断している。

2 「健康」の出現

かつていくつかの「健康」に関係する研究において共通して焦点を当てていたのは、緒方洪庵（1810-1863）が著した『病学通論』（1849）であり、そこではオランダ語の「gezondheid」が「健康」と訳されている。このことから医学史研究者の杉浦守邦は緒方が「健康」の創始者であろうと判断していた。ところが実際には緒方以前にも「健康」の用例があることが確認されたことから、杉浦も後になってこのことを認めることとなった。

それは平尾真智子が、臨済宗を中興した江戸中期の禅僧である白隠慧鶴（1685-1768）が著書『於仁安佐美』巻之上（1751）において「健康」を使用しており、その後の著書に

においても「健康」の用例が見られることを発見し、「健康」を最初に書物に残したのは白隠であると判断したことである。しかしここでの「健康」がどのようなに一般に広まったかは定かでない。ただし平尾も「健康」という語は、日本人によって創られた語であろうと推定している。

後になって作成された徳川幕府洋書調所・堀達之助編『英和対訳袖珍辞書』（1862）においては、「health」に関連する語は次のように訳されていた。

Health s 健康安全
Healthful adj 健康ナル
Healthless adj 健康ナラザル、弱キ
Healthness s 健康ナルコト

一方でほぼ同時期に編纂された美国平文先生編訳『和英語林集成』（1867）では、「Health」を「Yojō（養生）」と訳している。

これらの状況から、確かに幕末期に「健康」は存在していたが、それを用いていたのは、一般人ではなく、ある限られた分野の人たちではなかったかと推測されている。

結論的には「健康」は江戸時代に日本人が創った可能性が高いが、いつ、誰によりどこで、どのようにして創られたのか等は現在のところ分かっていない。

3 「健康」の普及

明治維新後においては、行政や教育現場において多くの印刷物が活用されることとなり、それらにおいて「健康」

が使用されてきている。当時の小学校の教科書、教師用の参考図書、或いは教則、更に世俗本の仮名垣魯文著『安愚楽鍋』（1871）等にも「健康」が見られる。

このように当時の色々な書物に「健康」が使用されるようになったことに關しては、福沢諭吉の存在が大きいといわれている。福沢は渡米中に入手した清国人子卿著の『華英通語』（英華対訳の単語集）において「health」が「精神」と記載されていることを確認したが、その後それに手を加えて出版した『増訂華英通語』（1860）の作成過程では適切な判断にいたらず、「健康」の新たな和訳を書くことができなかった。しかし後年になって著した『西洋事情』（1866）においては「身体の健康を保つ」という記述が見られる。そしてそのことが「健康」が一般に使用されるようになることに影響したのではないかと推察されている。

おわりに

現代社会においては「health」を「健康」と訳すことが一般的であるが、場合によっては「保健」や「衛生」等と訳されていることもある。例えば、「保健体育」「保健教育」「学校保健」「保健所」「公衆衛生」「環境衛生」「衛生習慣」等がその例である。またWHOという組織名の「World Health Organization」を邦訳する際に「health」については「健康」ではなく「保健」が用いられている。

このように英語の「health」に対応する日本語が統一されていない状況が数多く存在する。と同時に「健康」をどのように定義すべきであるのかということについては、どこかで総合的に、或いは学問的に検討し整理することが必要ではないかと考える。しかしその一方で、実際にそれぞれの用語について踏み込んで見ていくと、全てを統一するにはかなりの困難があることも懸念される。

（筑波大学 名誉教授）

主な参考文献等（当該ページ数省略）

- ・青木純一他：「健康」の語誌的研究 東横学園短期大学紀要 第四一号、二〇〇七年
- ・荒川清秀：「健康」の語源をめぐって 文学・語学、第一六六号、二〇〇〇年
- ・荒川清秀：「健康」の語源をめぐって 『日中漢語の生成と交流・受容』白帝社、二〇一八年
- ・石川 巖校訂：『養生訓・和俗童子訓』岩波書店、一九五一年
- ・上安祥子：明治六年の公園布告と「健康」 白鷗大学論集、第三二第巻一、二〇一七年
- ・白田 寛他：WHO憲章の健康定義が改正に至らなかった経緯 日本公衆衛生誌、第四七巻第二号、二〇〇〇年
- ・杉浦守邦：「健康」という語の創始者について 日本医史学雑誌、第四三巻第二号、一九九七年
- ・杉浦守邦：再度、「健康」という語の創始者について 医譚、第九四号、二〇〇一年
- ・北澤一利：「健康の誕生」野村一夫他：『健康ブームを読み解く』青弓社、二〇〇三年
- ・拙著：我が国の健康観の歴史「健康」という用語をめぐって 体育科教育、第七一卷第八号、二〇二三年八月
- ・竹中憲一：中国語と日本語における字順の逆転現象 日本語学、第七巻第一〇号、一九八八年
- ・直木公彦：『白隠禅師：健康法と逸話』日本文芸社、一九七五年
- ・新村 出：『広辞苑 第七版』岩波書店、二〇一八年
- ・平尾真智子：白隠禅師の仮名語法にみる「健康」の語の使用 日本医史学雑誌 第六二巻第二号、二〇一六年
- ・平尾真智子：白隠禅師の仮名語法にみる「健康」の語の使用『於仁安佐美』（1760）から『ざし藻草』（1760）まで 日本医史学雑誌、第六四巻第三号、二〇一八年
- ・平尾真智子：白隠禅師と「健康」に関する研究とその後の事実 医譚、第一一五号、二〇二二年
- ・八木 保他：用語「健康」の由来を求めて 保健の科学、第四〇巻第一〇号、一九九八年
- ・八木 保他：用語「健康」の由来を求めて（第二報）保健の科学、第四一卷第八号、一九九九年
- ・八木 保他：用語「健康」の由来を求めて（第三報）保健の科学、第四一卷第一二号、一九九九年
- ・八木 保：「健康」という語の源流とその流布について 保健の科学、第四三巻第八号、二〇〇一年

元素講話こぼれ話 第十話： 照明と元素

大嶋 建一

私達の暮らしを照らす照明は約200年前(1810年代)にろうそくやランプからより明るいガス灯が登場した。その約70年後(1879年)、発明王エジソンは電気を使った白熱電球を発明した。エジソンが作った電球では京都の八幡産の竹を蒸し焼きにした炭素線をフィラメントとして使用され、1200時間以上点灯したそうである。その60年後(1938年)に蛍光灯の発明、更には60年後(1996年)に照明用のLED(発光ダイオードと呼ばれる半導体)が発明された。現在、建物の多くでは照明として蛍光灯が利用されているのが現状である。

ところで、2023年10月30日から11月3日までスイス・ジュネーブにて「水銀に関する水俣条約第5回締約国会議」が開催された。この会議では地球規模の水銀または水銀化合物による汚染や、それによって引き起こされる健康、および環境被害を防ぐために、国際的に水銀を管理することを目的としている。この結果、蛍光灯の製造・輸出入が2027年末をもって禁止されることが決定されたので、今後の日常生活では一日も早く照明を蛍光灯からLED照明に移行する必要がある。今回のこぼれ話では白熱電球、蛍光灯およびLED照明の仕組み(下図)とそれらの特徴を述べる。なお、下図中の電子、水銀、正孔のサイズは超極小であるので拡大して示す。

白熱電球は74番目の元素タングステン(W)のフィラメント線をガラス球に詰めたものである。タングステンは比重が大きく、高融点(3422℃)金属で耐久性があるが、さらにその寿命を延ばすために、ガラス球に不活性アルゴンガスを詰める。電気を流すとフィラメントは熱せられ発光する。しかし、白熱電球は電力の

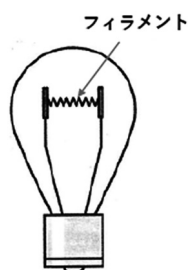
10%ほどを可視光に変換するだけで、大部分は熱や赤外線として放射してしまう。

蛍光灯は管内に電極材としてのタングステンと80番目の元素の水銀を詰める。また、管内側には蛍光物質としてアンチモンやマンガンを添加したハロリン酸カルシウムが塗られている。電気を流すと、電極から電子が放出され、水銀原子とぶつかり、紫外線が出る。さらに、その紫外線が蛍光物質にぶつかり、発光する。発光の原理はすでに、第六話：花火と元素(2024年秋号No.1122, p17)にて説明した。

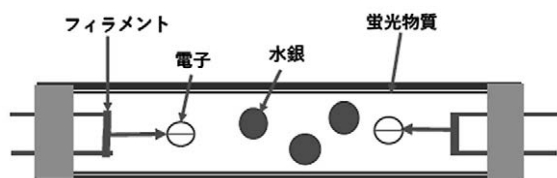
LED(Light Emitting Diode、発光ダイオード)は電気を光に変換する半導体である。ここで、半導体とは電気を通す「導体」と電気を通さない「絶縁体」の中間の性質を持つ。LEDではマイナス(電子)の性質を持つn型半導体とプラス(正孔)の性質を持つp型半導体を接触して電流を流すと、その接触部から光エネルギーが放出される。LEDは白熱電球と違い、半導体に流した電流が直接光に代わるので効率が良く、少ない電気で明るくなる。ところで、光は「赤(R)、緑(G)、青(B)の3色の組み合わせで、全ての色を作り出す」ことが可能である。赤色LEDは1962年に、黄緑色LEDは1972年に発明され、20年後の1993年には赤崎勇、天野浩、中村修二の3氏が窒素・ガリウムを素材とした半導体で青色LEDを実現させた。実際、照明用の白色光のLEDはRGBの光を組み合わせただけのもの他に、いくつかの方法がある。また、テレビ、パソコン等のスクリーンにはあらゆる色が見られるが、画面を拡大鏡で見ると3つのR, B, G素子が規則正しく並んでいることが分かる。

参考文献：「元素のしくみ」(西東社)、「光って何？」(キャノンサイエンスラボ)、「光とは何か？」(ニュートン別冊)、「水銀に関する水俣条約」(ウイキペディアフリー百科辞典)

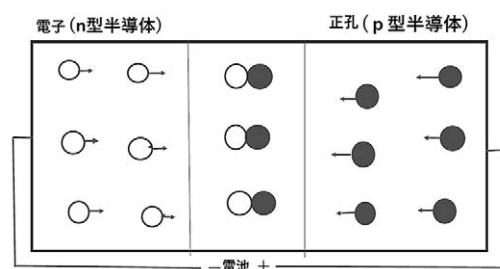
白熱電球



蛍光灯



LED



◆集まれ体専4期！筑波大学体育専門学群4期生同期会

と き 令和7年4月27日(日)

ところ 筑波大学・大学会館レストラン「筑波デミ」

令和2年に一度企画した同期会は、コロナ禍で中止。今回、筑波の地で開催、北は北海道から南は九州鹿児島まで総勢80名が集まりました。懐かしさに弾ける笑顔、時計の針はあっという間に45年前に逆戻り！最後に一重円になり肩を組み、宣揚歌「桐の葉」を熱唱し盛会裏に終えることができました。

文責：久保 淳（S56筑体・剣道部）



◆東教大理学部応用数理学科卒後50年

と き 令和7年6月6日(金)

ところ 嘉ノ雅茗溪館（茗溪会館）



東教大理学部応用数理学科の卒業後50年の催しを開催しました。～昭和46年に入学し、どんな授業となるのか期待と不安でしたが、啞然！～Modern Mathematical Analysis 800ページ弱の英文の教科書でした。～皆、理論と演習を英和辞典片手に手探りの授業が初めての経験。～今から思うと、楽しかったかもしれません。

未だ、教員を続ける者、既に離職した者等様々な70年を超える人生を送る13名が集い、始めに故人に対する黙祷から始まり、各々の状況報告、その後の懇親とあつという間の2時間、さて次回は何時？
文責：野中不二男

◆筑波大学剣道部一期生の会（剣翔会）

と き 令和7年6月26日(木)

ところ 丸亀武道館・ことひら温泉琴参閣

私たちのこの会（剣翔会）は3年前に筑波大学剣道場およびホテル日航つくばで行った筑波大学創設50周年記念会より、毎年行うこととしています。本年は香川県の丸亀と琴平にて実施しました。稽古会は大学3年生時の剣道部夏合宿でお世話になった思い出深い丸亀武道館（エアコン設備なし）で行い、その後、「ことひら温泉琴参閣」へ移動しての入浴・宴会でした。近隣に居住する剣道部後輩および夫婦での参加者を含め、総勢23名の会となりました。



追記：長距離運転と稽古・入浴・飲酒で体調を崩す者があり、今後、70歳過ぎのメンバーが集まるとの稽古・宴会のあり方を配慮しなくてはならないことを痛感しました。

（体専S53年卒 木原資裕）

相澤 鎮夫	青木 謙治	青山 文久	赤川 彰彦	秋本 光徳	穂吉 修	浅井 康明	浅島 誠	浅羽 亮一	天野 美智穂	新井 俊介	新井 幸徳	飯塚 亨	石上 裕	石川 明範	石川 尚子	石川 博之	石田 幸栄	井田 洋一	板本 正夫	市川 邦彦	伊藤 恭滋	伊藤 隆則	伊藤 典明	伊藤 行生	糸原 孟則	井上 徳之	岩井 尚龍	岩崎 信夫	岩田 芳子	上野 雅恵	上原 勉	上松 豊	内田 康	内野 春喜	内堀 繁利	江田 昌佑	大澤 得二	太田 初美	太田 寛人	大竹 進	大塚 奈奈絵
大西 真果	大貫 義人	岡崎 一雄	岡元 淳尚	奥山 訓近	尾崎 貞香	落 信久	小内 稔	小野 淳	小野 太佳司	掛谷 一夫	加藤 志乃婦	加藤 純一	金谷 麻理子	金子 京子	金子 十美代	河合 孝広	河合 孝学	河島 孝彦	川島 輝雄	河田 道敏	河野 雄一	川又 章	川本 太郎	菅野 等	日下部 公昭	國枝 雄一	窪田 善雄	倉澤 任彦	小畔 東	合田 浩之	古賀 正義	後藤 恒顕	小成 幸男	小濱 政興	小林 千洋	小林 正貴	小宮山恵三郎	齋藤 隆	酒井 政美	坂入 浩	坂本 明由
佐藤 朱美	佐藤 智美	佐藤 豊実	真田 永尊	澤谷 元喜	山海 嘉之	重田 親志	重藤 辰治	篠田 邦彦	柴田 淳	柴田 恵美子	洪沢 仁司	島谷 弘幸	下山田 芳子	庄司 潤一郎	菅谷 公男	鈴木 泰全	隅木 信利	関 輝幸	瀬木 明	関崎 哲	千田 俊明	田井村 明博	高井 貞昭	高岡 正幸	高木 啓	高野 だいわ	高橋 利之	高見澤 隆	高見澤 俊雄	田澤 直人	田瀬 則雄	立崎 英夫	田中 誠一	田中 正夫	田中 守	田中 睦夫	田中 陽子	谷 勝彦	谷 垣康	種田 一夫	田淵 英樹
田村 和浩	千輝 克忠	都築 功	都竹 淳也	寺井 正憲	寺尾 壽幸	寺崎 順	寺脇 久人	照井 貴子	戸井田 克己	戸崎 早苗	仲 咲子	中澤 伸夫	中島 耕士	中島 光廣	中野 憲二	中村 穎司	中村 伸夫	中山 貞夫	中山 芳典	夏目 幸一郎	榎原 祥弘	西塚 春義	西村 志郎	西村 浩宣	沼田 治	根本 進	野村 良和	濱方 克彦	浜田 英一	林 昌美	原 修	原 信夫	原 美子	原田 隆康	東 勇介	平形 精一	平林 正光	蛭田 成一	廣瀬 允人	福田 省三	藤田 弘美
藤谷 秀道	藤原 一宏	藤原 善行	古瀬 範雄	星野 正樹	増原 光彦	町田 龍一郎	松井 康成	松澤 宏明	松雪 誉	溝口 繁美	南橋 理	宮崎 素明	宮崎 洋子	宮下 弘子	三輪 華江子	三輪 一義	村田 和繁	森田 康久	森藤 茂男	守谷 昌久	諸我 伊左緒	安ヶ平 浩	谷中 隆	矢部 榮五郎	山縣 和人	山岸 葉子	山口 直行	山口 松太郎	山崎 哲彦	山田 龍也	山本 敬三	山本 雅一	湯本 宣政	吉尾 健太郎	六嘉 順子	渡部 徹	渡邊 寛	(五十音順・敬称略)			

桐の葉のつどい

同期入学、または同好のみなさんの集まりを紹介したものです。

◆JTB「茗桐会」

と き 令和7年7月10日(木)

ところ 嘉ノ雅茗溪館(茗溪会館)

「茗桐会」は、東京教育大学・筑波大学卒業生でJTBのOB・OG・現役社員の親睦会です。

今回は令和5年に続いて1年半ぶりの開催に約20名が集いました。当日は時間毎にテーブルを移動し、参加者同士が多くの交流を図れる良い機会となりました。先輩方の築き上げた貴重な経験の話を後輩が熱心に聞き、最近の後輩の活躍や未来の希望の話しに先輩が温かく耳を傾け、世代を超えた親睦を深めました。改めて「つながり」を感じられる会となりました。

文責：水迫 力 (H2年筑体)



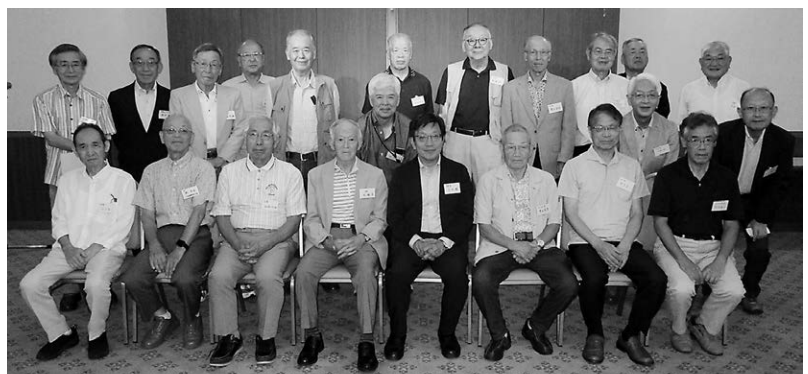
◆駒場筑波農業土木同窓会総会

と き 令和7年7月12日(土)

ところ ホテルローズガーデン新宿

先輩たちのご逝去や退会の方が増え、会員数が減少の一途となっておりますが、今年は非会員の方にも声掛けを行い、参加者数が例年より少々増えた総会となりました。

文責：持丸晴久 (S57年農林学類卒)



創基151年筑波大学開学50周年記念事業

創基百五十一年筑波大学五十年史 史料編上巻

筑波大学50年史編纂委員会 編

2025年3月刊行 B5判上製本、1255ページ

明治5年(1872)の師範学校創立から昭和53年(1978)の東京教育大学「閉学」までの史料1296点を収録し、その中には東京体育専門学校や東京農業教育専門学校、図書館情報大学の前身となった図書館員教習所等の史料も含まれる前身校に関する包括的な資料集。創基151年筑波大学開学50周年記念事業の一つとして編纂された年史の第3冊で、今後最終巻の通史編を刊行予定。



各巻ともCD-ROM付、頒布価格各10,000円(税込) ※国内郵送料含む

◎発行部数の一部を実費で有償頒布いたします。

◆本書の内容◆

- 第1編 師範学校・東京師範学校
- 第2編 高等師範学校・東京高等師範学校
- 第3編 東京文理科大学
- 第4編 前身諸校
- 第5編 東京教育大学
- 第6編 移転問題から新構想大学の設立へ
- 第7編 文部省図書館員教習所～図書館情報大学

既刊2冊として
「史料編下巻」
(筑波大学期)
「図説編」
もあります
※残部僅少



発行：筑波大学(50年史編纂室) つくば市天王台1-1-1

申込先：筑波大学アーカイブズ 〒305-8577 つくば市天王台1-1-1
TEL: 029-853-4127 E-mail: univ-archives@un.tsukuba.ac.jp

↑
詳しいお申込み方法、
支払方法等はこちらから



子どもたちの「好き」を一緒に応援しませんか？

詳細・問い合わせ

筑波大学東京キャンパス事務局
学校支援課「科学の芽」賞
03-3942-1680



<https://readyfor.jp/projects/kagakunome20>

子どもたちの可能性を広げるこのプロジェクト。皆様からのご支援により、子どもたちの成長を後押しし社会に貢献したいと考えます。

「科学の芽」賞×クラウドファンディングウドファンディングについての詳しい内容はこちらよりご覧いただけます。

3か月間
実施期間 9月1日～11月30日

「科学の芽」賞×クラウドファンディング
朝永振一郎記念「科学の芽」賞は、筑波大学ゆかりのノーベル物理学賞受賞者・朝永振一郎博士の生誕100年を記念して創設された本学主催の全国規模の科学コンクールです。
今年で創設20周年を迎えるのを機に、本賞を未来の科学者たちがつながら、成長しあう場として進化させていくことを目指します。第20回の表彰式・発表会に受賞OB・OGを招き、交流の場をつくる機会とするため、クラウドファンディングによる支援をお願いすることとしました。

追 悼 録（敬称略）

逝去会員氏名・卒年科・地域・
逝去年月日・続き柄・遺族氏名

須長 吉一 S23理一	千葉	R6.11.14	長男	須長 孝裕	橋野 康雄 S34教大化	千葉	R6.11. 6	妻	橋野 俣子
依田 丈治 S23文二	東京	R7. 4.26	妻	依田多恵子	吉井 量人 S34教大國	栃木	R7. 7.28	長女	吉井 夏実
佐藤 行男 S23農教	宮城	R7. 7.23	長女	豊口 聡子	清水 保善 S34教大地	神奈川	R7. 9.11	妻	清水 雅子
山口 俊治 S28大教	東京	R6. 4. 2	長女	松澤 真弓	高見澤俊雄 S35教大英	長野	R7. 4.30	長男	高見澤 格
石井 千昭 S29教大英	神奈川	R7. 7.21	妻	石井 邦子	堀内 昭三 S35教大法政	茨城	R7. 9.15	長男	堀内丈太郎
大野 昭諭 S30教大社	神奈川	R6.10.23	妻	大野 章子	世良 惟彦 S36教大林	東京	R7. 5. 7	妻	世良 恵子
下田 亘 S31教大地	東京	R7. 7.12	長男	下田 知樹	帰山 享二 S37教大化	茨城	R7. 4.18	妻	帰山南津子
安田 恭一 S31教大総農	北海道	R7. 7.18	長男	安田 肇一	荒木 堯 S37教大農工	千葉	R7. 5.24	妻	荒木多賀子
小松 朝夫 S32教大英	東京	R6. 9.25	長男	小松 秀夫	大畑 利幸 S38教大哲	兵庫	R7. 2.16	義妹	中塚千賀子
野中 進 S32教大総農	東京	R6.12.10	妻	野中あさ子	中林 克彦 S38教大農化	神奈川	R7. 7.24	妻	中林 正子
福岡 一雄 S32教大法政	千葉	R7. 9.23	妻	福岡 光子	水野 建雄 S45院博倫	茨城	R7. 1. 3	妻	水野 裕子
藍 尚禮 S33院修動	東京	R6. 2.18	妻	藍 安子	小松 茂美 S50教大体	長野	R6. 7. 2	長男	小松 志憲
田崎 宗壽 S33教大英	福島	R7. 2.10	長女	秋葉千佳子	手塚 康行 S52教大化	栃木	R6. 8.11	妻	手塚 康子
片岡 暁夫 S33教大体	東京	R7. 2.25	妻	片岡 洵子	春山 賢男 S55筑一自	埼玉	R7. 9. 5	妻	春山 則子
末藤賢太郎 S34教大農化	東京	R6.10. 3	長女	吉田 英子	濱田 倫郎 H19筑修理	茨城	R6.10.28	妹	榎田 敏江

【1975年度入学から50年・筑波大学同窓会 開催のお知らせ】

標記の件について、以下のとおり開催を計画していますので、お知らせいたします。

1975年度筑波大学入学（第一学群、体育専門学群、医学専門学群は二期生。第二学群、芸術専門学群は一期生となります。）同窓生を一堂に会し、懇親を深めたいと考えています。

日 時：令和 8 年 2 月22日（日） 14時～17時

場 所：茗溪会館 2 階（茗溪の間）

問合わせ：茗溪会 事務局 03(3941)0136 info@meikei.or.jp

詳細は、学群毎の主幹事（世話人）により検討中です。内容・申込方法などは季刊誌『茗溪』の正月号 No. 1127 に掲載いたします。1975年度入学の同窓生をお誘いの上、是非ご参加ください。

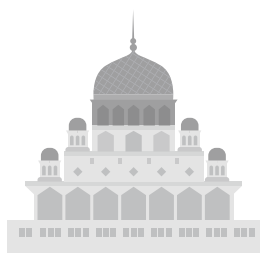
筑波大学は今

学際サイエンス・デザイン専門学群 (筑波大学マレーシア校)入学式実施

9月2日、学際サイエンス・デザイン専門学群(筑波大学マレーシア校)で、2025年入学式を挙行了しました。マレーシア高等教育省のYBhg. Datin Noorazah (Under Secretary of the International Relations Division)、在マレーシア日本国大使館の四方敬之大使をはじめとした両国関係者、筑波大学から永田恭介学長、加藤光保副学長・理事(教育担当)、千葉親文副学長(学生担当)、教職員、新入生家族に見守られ、15名の新入生がマレーシア校で新たな一歩を踏み出しました。

筑波大学マレーシア校は、海外で初めて日本の学位を授与する大学として、2024年9月1日、マレーシアの首都クアラルンプールで開校しました。新入生のほか、一期生である新2年生12人が学びます。

式典に続き実施されたオリエンテーションでは、新入生と新2年生が交流を深めました。



グローバルヴィレッジ夏祭り 2025を開催

7月17日、グローバルヴィレッジコミュニティステーション2階において、グローバルヴィレッジ夏祭りを開催しました。

この夏祭りは、グローバルヴィレッジ全棟の運用が開始した2018年から、入居者の交流推進及び留学生の日本文化・風習を体験することを目的として、本学とグローバルヴィレッジの管理運営業務委託事業者の大和リースグループとの共催で開催しています。

5回目の開催となる今回は、グローバルヴィレッジ及び短期留学・ショーステイハウスの入居者約100名が参加

しました。参加者は、ヨーヨー釣りや射的ゲームなどの縁日や提灯の絵付けを体験しながら交流を深めました。



学長と全学学類・専門学群・総合 学域群代表者会議(全代会)構成 員との懇談会(茶話会)を開催

6月26日、令和7年度「学長と全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議(全代会)構成員との懇談会(茶話会)」を開催しました。

本懇談会は、毎年5月に全代会構成員が新メンバーになることから、新議長団を中心に策定した活動方針を学長・副学長等へ説明し、懇談を行うことを目的として例年実施しているものです。

懇談会は2部構成で行われ、第1部は唐木清志学生生活支援室長の司会のもと、永田恭介学長の挨拶で始まり、続いて吉川 桃全代会議長(理工学群

工学システム学類3年次)及び各委員会委員長等から今年度の活動方針等について説明がありました。また、全代会から、「新宿舎のソフト面における提言 チュートリアル教育の実践と学生の連携について」や「成績評価方法変更および期末試験期間廃止について」などの話題提供があり、活発に意見交換が行われました。また、今回はマレーシアの学際サイエンス・デザイン専門学群学生のオンライン通信による紹介も併せて行われました。

第2部は、学生と学長をはじめとする教職員とが軽食を楽しみながら和やかな雰囲気の中で、自由闊達に意見交換を行いました。普段面と向かって接する機会が少ない学長や副学長等と学生とが胸襟を開いて懇談する、貴重な時間となりました。



茗溪学園だより

個人課題研究中間発表会

表記の発表会が、9月26日開催されました。発表者は、IB課程を除く高校2年生257名全員です。2会場に分かれ同時に86名が発表、それを3回連続3交代で行います。発表時間は5分、質疑に3分、これが全部で9回繰り返されます。聴講する高校1年生は、9つの研究を聴くことができるので、関心のあるテーマのところに次々に飛び回ります。質疑応答にも熱がこもります。

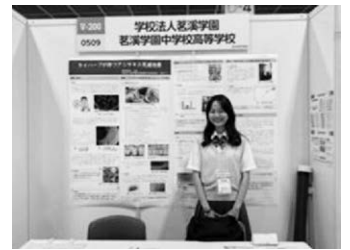
今年度は、6月に研究構想発表会(初めての試み)を催し、この中間発表会のあと、論文として完成させ1月の締切り日までに提出、2月の発表会を経て優秀研究による公開発表会が3月実施というスケジュールで進められます。



上：会場のようす
下：テーマ「日本の紙幣の進化論」

研究発表 SSH発表会

令和7年度のSSH生徒研究発表会が8月6・7日に神戸国際展示場で開催されました。本校からは、高校2年次の個人課題研究で、「タイハーブが



神戸国際展示場SSH発表会会場にて

持つ「アニキサス死滅効果」という研究をした女子生徒が代表として参加しました。本生徒は、7月下旬からオーストラリア・クイーンズランドで開催されたGlobal Learning世界大会の発表者にも選出され、英語でのプレゼンを行っています。将来も理系の研究活動が続けていきたいと抱負を語っています。

SSH屋久島フィールドワーク

表記の活動が、8月18日(22日の期間で行われました。初めてSSH認定校になって以来、埼玉県春日部高校との合同研究として続いている活動です。

それぞれの学校から10名ずつ計20名が参加しました。全体調査のテーマは気候、生態系で、個人テーマはコケ、土壌、海浜堆積物、植生などでした。充実した調査活動ができました。

海外研修(インドネシア)

夏休み中に行われた海外研修からインドネシア研修を紹介します。7月27日(8月7日の期間で12名が参加しました。今年は、姉妹校の「ラッフルズクリスチャンスクール(ジャカルタ)」と「SMAプラデイト・デイルガンタラ校(ジャワ島中央にある都市ソロ・IBの学校)」を訪問し、授業参加、ホームステイ、伝統料理や楽器の演奏、英語の使った研究発表などの交流をしました。また、ボロボドゥールなどの遺跡も訪ねています。貴重な体験となりました。

大学連携・出前講座・高1

夏休み明けの8月28日、連携大学を含む10大学(筑波大、茨城大、国際基督教大、順天堂大、立命館アジア太平洋大、東京理科大学、法政大、多摩美術大、東京電機大、武蔵大)から本校に講師が派遣され、高校1年生を対象に出前講座が開催されました。講座は、法律、経済、心理学、理学、工学、芸術など多岐にわたり、生徒達は関心のある講座に出席しました。

大学連携・理系大学訪問・中3

大学連携活動の同日、中学3年生もキャリア教育として、理系大学訪問を行いました。協力いただいた大学は、芝浦工大、千葉工大、東京電機大、東京理科大学、順天堂大、麗澤大の6大学でした。

理・工学、情報、建築、デザイン工学、医学、薬学、看護などの分野の大学授業の話や最先端研究について学びました。

ラグビー国際交流戦

9月16日、ニュージーランド(NZ)のマクリン・カレッジとラグビーの交流試合が行われました。同校との交流戦は1997年以来今回で5回目です。2012年には本校がNZ遠征をして同校と試合をしています。



大きな選手に果敢にタックルする茗溪選手。試合は44-12で茗溪が勝利。本校グラウンドにて

部活動報告(試合結果など)

【高校運動部】インターハイ結果: バドミントン部: 男団体ベスト16、女団体1回戦、男シングルスベスト16、男ダブルスベスト16/体操部: 男団体24位、女団体19位、男個人総合7位、男種目別跳馬2位鉄棒2位/テニス部: 男団体2回戦、男シングルス2名出場2回戦、男ダブルス1回戦/剣道部: 男個人3回戦/ラグビー部: 全国7人制大会プレートトーナメント9位/全日本ジュニア大会: バドミントン部: (9月北海道開催) 高2男シングルスベスト32、バドミントン部員2名: 茨城県代表として国スポ滋賀大会出場/アジア大会「アジアラグビーエミレーツU18男子セブンズ2025」(9月中国モンゴル自治区フフホト市開催、8か国・都市参加)に日本代表選手として高2ラグビー部員出場・日本チーム優勝

【中学運動部】関東中学大会出場: 剣道部: 男団体/柔道部: 女52kg級、男90kg級/体操部: 男団体3位・男種目別跳馬2位・ゆか3位/テニス部: 男団体、女団体/ラグビー部: 全国ジュニアラグビー大会関東予選優勝(全国大会は12月東京開催)/中学全国大会結果: 柔道部: 女個人48kg級ベスト16/体操部: 男団体5位・種目別跳馬2位・ゆか5位、体操全日本ジュニア: 中学男Aクラス個人総合6位・種目別跳馬優勝・ゆか3位・高校2部種目別ゆか2位/全国中学ラグビー大会(9月水戸開催): 準優勝・決勝戦で敗れ3連覇ならず

【文化部】科学部無線工学班: 第20回全国高校ARDF競技大会(3.5MHzスプリント)高校団体3位、女個人5、8位、中学の部団体優勝、個人男優勝、女優勝(144MHzクラシック)高校団体3位、高男個人優勝(茗溪生で初の快挙)、中学団体優勝、男個人1位、2位、女個人優勝/ギター部: JGA全国学校ギター合奏コンクール銅賞(中2~高2・9名)

予 告

茗溪倶楽部 in 博多

～異業種交流会Ⅱ～

令和7年11月8日(土) 14時～17時

IRISH PUB CELTS

第14回OB・OGキャリアカフェ

～地方公務員編～

令和7年11月19日(水) 15時～

筑波大学

令和7年度 追悼のつどい

令和7年11月15日(土) 11時～

茗溪会館

東京茗溪会総会

令和7年11月30日(日)

13時30分～14時15分 茗溪会館

1都4県共催講演会・懇親会

令和7年11月30日(日)

14時30分～18時00分 茗溪会館

講演者 山下訓史氏(S61筑休)

(二段跳び日本記録保持者)

1都4県情報交換会

令和8年1月10日(土) 15時～

茗溪会館



株式会社 阿部兄弟建築事務所
平成26年度東京ワークライフバランス認定企業

<http://abeoffice.co.jp>



〒101-0032

東京都千代田区岩本町1-3-9 高木ビル

代表取締役 荒井 豊人(昭和57筑基工)

TEL 03-3866-4181 FAX 03-3866-4120



株式会社 十和観光

代表取締役 井坂 信洋

URL <http://www.juwa.com> E-mail travel@juwa.com
〒300-2451 茨城県つくばみらい市箕輪254
TEL 0297(52)1221 FAX 0297(52)1220

印刷・製本までトータルに対応

株式会社 ケエスアイ

本 社 〒557-0063

大阪市西成区南津守7-15-16

TEL 06-6652-8000 FAX 06-6652-8894

スポーツ&起業家&企業人「つくばウェイ」

TSUKUBA WAY プロジェクト

～茗溪・筑波OB・OGの活躍を集約!!～

<http://tsukubaway.com/>

株式会社 KTAJ

代表取締役 藤田 文武(体育専門学群) 2004年卒



株式会社 長谷工 コーポレーション

〒105-8507 東京都港区芝2丁目32番1号

電話 03(3456)4501

取締役副社長執行役員 植岡 祥之(昭57筑社工)

学校服のことなら

株式会社 オリムピア

〒124-0024 東京都葛飾区新小岩 1-43-6

TEL:03(3654)2251 FAX:03(3651)2323

<https://www.s-olympia.com>

取締役 渡邊(草間) 悟(56 農林・62 博農)

集めるのは「知識」と「技術」

さまざまなモノや思想を“寄せ集め”
教育の世界が求めるウオントを形にする会社

PiCK & MiX

Keeping Up Innovation with Integrating
Art & Technology

株式会社ピックアンドミックス 代表取締役 松村直樹

<https://www.pickandmix.co.jp/>

FXC

Future X Communications

FXC株式会社 <https://www.fxc.jp/>

当社は光通信機器やイーサネットスイッチ等のネットワーク機器を開発・製造し、各地の公立高校始め、官公庁、企業等に多数納入実績がございます。

創業者：代表取締役社長執行役員 谷輪 重之(93筑修経営)

筑波大学教員、広島大学教員初のコラボレーション！

新・教職課程演習

全 22 巻

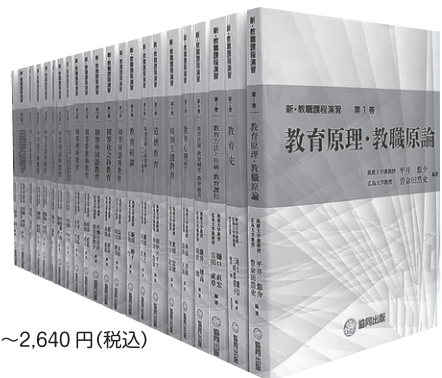
筑波大学人間系教授 清水美恵

広島大学大学院教授 小山正孝

監修

明治時代から我が国の教員養成をリードしてきた筑波大学教育学学位(大学院)プログラムと、
広島大学大学院人間社会科学研究所(旧大学院教育学研究科)の専任教員が編者として
初めて協力する画期的な演習シリーズ。我が国の教員養成の質向上を一段と図ります。

A5判・並製
定価：1,650円～2,640円(税込)



協同出版

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 2-5

TEL.03-3295-1341 FAX.03-3233-0970 HP.<https://kyodo-s.jp>

「新・教職課程演習」全 22 巻

令和7年10月15日

令和8・9年度 代議員選挙公示

一般社団法人茗溪会 選挙管理委員会

定款では、代議員が法律上の社員となり社員総会の議決権をもつと定められており、代議員の選任は、全正会員からの立候補及び推薦による候補者を正会員の投票により選出することとなっております。代議員選挙規程にもとづき左記のとおり選挙を実施します。

記

1. 代議員定数84人（平成7年3月31日現在の正会員数による。）

2. 立候補手続き（①立候補者）

- (1) 立候補者資格：正会員（最近2年間の会費納入者または完納者）
- (2) 立候補の条件：所属する地域組織等の3名以上の正会員の推薦
- (3) 手続き：「立候補届」（様式5-1）を所属する地域組織等の代表者に提出
- (4) 立候補×切：11月6日

3. 推薦手続（②推薦候補者）

- (1) 被推薦者の資格：正会員
- (2) 推薦の条件：正会員3名以上の推薦
- (3) 手続き：「候補者推薦書」（様式5-2）を、所属する地域組織等の代表者に提出

4. 地域組織等でのとりまとめ

- (1) 地域組織の代表者は、候補者名簿（様式5-3）を選挙管理委員会へ提出
- (2) 提出期限（地域組織等から選管へ）：11月20日

5. 候補者名簿作成

季刊誌『茗溪』正月号に同封、正会員郵送。た

だし、候補者数が代議員定数以内の時は、無投票とし、候補者をもって当選とします。

6. 投票

正会員は投票用紙に記入の上、選挙管理委員会宛郵送する。

投票×切：2月10日

7. 当選代議員公示

季刊誌『茗溪』春号に代議員名簿を掲載

令和7年春の叙勲（追記敬称略）

瑞宝中綬章

片岡 暁夫 33教大体 （東京）

※本欄は、各地域からの調査報告により掲載しております。もし記載もれがある場合は、事務局までお知らせください。

表紙写真について

筑波大学つくば鳥人間の会は、毎年琵琶湖で開催される鳥人間コンテストへの出場を目標に、人力飛行機の設計・製作に取り組んでいます！

今年は書類選考を通過し鳥人間コンテスト2025への出場を果たし、1565・04mという飛行距離を達成しました。

写真は琵琶湖の空を駆け抜ける直前の我々の機体「彗星」と会員たちです。今回の記録は我々に大きな喜びと感動を与えてくれるだけでなく、多くの反省や改善の気づきを与えてくれるものでした。

これからも技術力と団結力を磨き、来年はより長い飛行を実現できるよう努力していきますので、応援よろしく願います！

編集後記

本誌「健康という言葉をめぐる」で触れられていましたが、日本語と中国語で文字の順番が入れ替わっている二字熟語があります。例えば、紹介、運命、平和などです。

中国語では、探偵が偵探となり、日本語タイトルアニメ「名探偵コナン」は中国語タイトルでは「名偵探柯南」となります。

「筑波大学新聞」10月号を同封します。

春号に続き「筑波大学新聞」10月号を同封します。筑波大学の様子が詳しく掲載されておりますのでお読み下さい。

お願い

- ・正確な会員情報把握のために、住所、勤務先の変更はすぐにご連絡下さい。
- ・年会費のお振込は、早めにお願いたします。

令和7年10月15日発行

発行 一般社団法人 茗溪会

茗溪会事務局・大塚事務所

112-0012 東京都文京区大塚一五二三

TEL 〇三三三九四一〇一三六

FAX 〇三三三九四一七六七四

E-mail info@mekeior.jp

URL http://www.mekeior.jp

郵便振替記号番号 〇〇一五〇一四九七七

筑波事務所

305-877 つくば市天王台一〇一

筑波大学・大学会館内

TEL 〇二九八五〇一〇四四

FAX 〇二九八五〇一〇四五

E-mail tsujimu@mekeior.jp

印刷 東京都文京区関口一三九一〇

山浦印刷株式会社



ごちそうをふるまう「おもてなしの館」

嘉ノ雅 MEIKEIKAN 茗溪館

レストラン・カフェ・結婚式・宴会・同窓会・会議



2F「茗溪」

最大 120 名様まで入れる 2F「茗溪」メインホール。
2 名様～ 18 名様まで収容可能な個室も完備。
シェフ自慢のフレンチイタリアンのフルコースや
ビュッフェだけでなく、日常にご利用いただける
「カフェハルテラス (1F)」にてランチも
お召し上がりいただけます。



4F「占春」

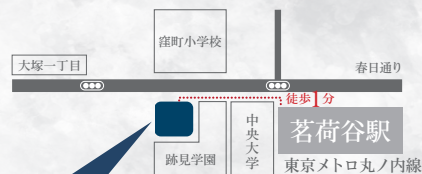
1F カフェハルテラス

ご 優 待 特 典

御婚礼 スタッフまでお問い合わせ下さい

お食事 ご飲食合計 (税別) より 10%OFF

対象 / 茗溪会員、筑波大学生、卒業生



か の び 嘉ノ雅 MEIKEIKAN 茗溪館

池袋駅から約5分・東京駅から約10分

丸ノ内線 茗荷谷駅 徒歩1分
(茗荷谷駅 1番出口)

公式ホームページ

KANOBI MEIKEIKAN
嘉ノ雅 MEIKEIKAN 茗溪館

〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23

<ブライダル>

<宴会・レストラン・カフェ>

03-5319-1888 03-5319-1890



変わる時代に、変わらない誠実な結婚を。



2025年、キュービッドクラブは設立45周年を迎えました。

私たちは積み重ねた歴史を大切に、この先の50周年に向け、

結婚を誠実にお考えの方限定の会員制クラブであり続けます。

4700通を超える結婚カップルの直接の言葉が何よりの信頼性。

“結婚・幸せメッセージ”が毎週届く事実こそ、キュービッドの誇りです。

キュービッドは“新家族提案業”、結婚を誠実に考える人へ、

堅実なご家庭を築く人との出会いをご提案します。

筑波大
ご出身の皆さまへ

ご入会の際、キュービッド推薦のスタジオ写真撮影料金(3万円相当)を
特典サービスいたします。

キュービッドが選ばれる、ゆるぎない真実

1 結婚を誠実に
考える人限定

安心の
会員制クラブ

2 キュービッド独自の

守り継がれる
ポリシー

3 会員の方の選択に
敬意を表し

心からリスペクト

4 あらゆる角度で
お相手をご提案

あなたに合う
マイスター

5 「良い人が
良い人を呼ぶ」

評判で広がる
会員の輪

6 ご両親に続き、
お子様も入会

親子2代での
結婚

キュービッドで結婚されたお二人がご投稿くださる

※
4786通の直接の言葉

※2025年8月25日現在

1・5・10・15・20・25・30周年の

“結婚・幸せメッセージ”で

信頼性のご確認を。



キュービッドクラブ 検索

キュービッドクラブは慶應義塾大学OB間の親睦パーティから1980年設立。2025年45周年を迎えました。

Cupid Club

お気軽にお問い合わせください。

0120-0333-82

■入会資格 結婚を誠実にお考えの独身の方

●男性25～45歳、定職におつきの方。 ●女性20～40歳 ※入会に際して審査があります。

〒107-0062 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル東館10F

電話 03-5843-1581 公式ホームページ www.cupid.co.jp

東京ビジネスホテル 茗溪会東京宿泊所

茗溪会会員割引料金（税サ込）

シングルB（バス・トイレ別） ￥ 5,000～

シングルA（バス・トイレ付） ￥ 7,300～

ツイン （バス・トイレ付） ￥10,500～

朝食バイキング ￥ 1,200→¥980

大浴場時間 : 6:30～9:00 17:00～01:00



東京都新宿区新宿6-3-2
TEL 03 (3356) 4605
FAX 03 (3356) 4606

地下鉄丸ノ内線 新宿御苑前駅 1番出口
都営新宿線 新宿三丁目駅 C7出口
地下鉄副都心線 新宿三丁目駅 E2出口
JR新宿駅より徒歩7分
JR新宿駅より車5分



「安心」「安全」「快適」な
ITインフラ環境を最先端の技術で実現



- ・社内ネットワーク
- ・院内ネットワーク
- ・無線 LAN, Wi-Fi
- ・テレワーク, Web 会議
- ・セキュリティ



FAAM



ESMO



No Man



Do RAY

豊富な実績、高い技術力で、皆様に最適な
ITソリューションをご提供いたします。

株式会社FYF

～ITソリューションでより良い未来を～

会社 HP

<https://www.fyf-h.com>

x (旧 Twitter) @FYF_INC

本社 〒277-0843 千葉県柏市明原 1-1-6
TEL 04-7192-8927 FAX 04-7192-8929
関西支店 〒530-0026 大阪府大阪市北区神山町 1-5 扇町公園ビル 6F
TEL 06-4306-4019 FAX 06-4306-4023
九州支店 〒812-0029 福岡県福岡市古門戸町 2-4 KS コモンドビル 5F
TEL 092-406-4443 FAX 092-406-4453
東北支店 〒980-0803 宮城県仙台市青葉区国分町 1-6-18 東北王子不動産ビル 5F
TEL 022-226-7290 FAX 022-226-7291
北海道支店 〒060-0062 北海道札幌市中央区南二条西 1 丁目 1-2
21 きのしたビル 9F
TEL 011-206-7482 FAX 011-206-7483



【会社 HP】

医療法人社団つるかめ会 ミラザ新宿つるかめクリニック

JR新宿駅東口徒歩1分

〒160-0022 東京都新宿区新宿 3-36-10 ミラザ新宿 7F



院長 岡本 高宏 (1982年卒)

健康診断してますか？
「年明けの健康チェック、今からご予約を」

ミラザ新宿つるかめクリニック
茗溪会様専用人間ドックお申し込みフォーム (2025)



広告を募集しています。

事務局までご相談ください。

一般社団法人 茗溪会

〒112-0012

東京都文京区大塚 1 丁目 5 番 23 号

電話 03(3941)0136

FAX 03(3941)7674

eメール info@meikei.or.jp

ホームページ <http://www.meikei.or.jp>

Meikei-
Making
the
Difference



Meikei
High School

茗溪学園中学校高等学校

* 茗溪学園は 1979 年に茗溪会の百周年記念事業で生まれた学校です

- ◆寮のある学校です
海外からの外国人留学生も生活しています
- ◆国際バカロレア IBDP 課程認定校です
- ◆「知識」「体験」「考え方」
——とことん学び身につけます
- ◆部活動が盛んな文武両道の学校です
- ◆多くの海外姉妹校があり、交流が盛んな学校です
- ◆文部科学省 SSH（3期目）認定校です

2026 年度茗溪学園入試日程

中学：11月15日(土)国際生特別選抜
(オンライン入試)
12月20日(土)推薦(専願)入試、国際生入試
1月11日(日)一般4科入試
1月24日(土)一般総合入試
高校：11月15日(土)国際生特別選抜
(オンライン入試)
1月9日(金)推薦(専願)入試
1月24日(土)一般入試
詳細は本学園ホームページでご確認ください。
お問い合わせは下記のe-mailをご利用ください。



アクセス つくばエクスプレスTX つくば駅A3A4出口 バスターミナル4番のりば「ひたち野うしく行」バス、
「環境研究所」下車徒歩5分 または JRひたち野うしく駅 東口バス乗り場「つくばセンター行」
e-mail kouhou@meikei.ac.jp (見学等) entry@meikei.ac.jp (入試等)